

令和6年度 第1回 益田地域保健医療対策会議

(地域医療構想調整会議関係者会議)

日 時：令和7年3月13日(木)

14:00～16:00

場 所：益田合同庁舎 大会議室

開会あいさつ

議 事

報告事項

1. 島根県保健医療計画（益田圏域）の進捗状況
 - ①健康長寿しまね（健康増進計画）（資料1）
 - ・健康長寿しまね推進会議（資料1-1）
 - ・健康寿命延伸プロジェクト（資料1-2）
 - ②医療・介護連携等（資料2）
 - ・各種取組報告（資料2-1）
 - ・益田圏域の医療データについて（資料2-2）
 - ・関係機関の取組（資料2-3）
2. 各市町・病院の取組（資料3）
 - ・橘井堂・津和野町の取組（県医師会医療・介護連携研修会報告）
3. 医療連携推進コーディネーター活動報告（益田市医師会）（資料4）

意見交換

テーマ「2040年の益田圏域がこうあってほしいな！を一緒に描こう（パート2）」（資料5）

- ①医療ひっ迫をさけるための連携強化
- ②虚弱高齢者、軽症者の療養支援の強化
- ③住民の協力・理解を得ながら、（医療・介護・生活等の）社会資源の維持・充実

その他

まとめ

益田圏域健康長寿しまね推進事業 (令和6年度活動内容)

【健康長寿しまね推進会議の運営】

- (1) 益田圏域健康長寿しまね推進会議 7/11(木)
- (2) 健康づくり魅力化プラットフォーム 6/3(月)9/3(火)
- (3) 健康なまちづくり連絡会 9/3(火)

【健康づくり活動表彰式及び交流会】 12/19(木)

受賞グループ | 県知事長:1団体 県会長賞:2団体 圏域表彰:4団体

【健康づくり情報発信】

健康づくり機器の貸し出し 22件

「しまね☆まめなカンパニー」登録事業所への情報発信

益田圏域健康長寿しまね推進会議では、構成団体の方々と対話を重ね「魅力ある健康づくり」を探求しています。



「健康づくり魅力化プラットフォーム」の立ち上げ

対話を通じた学びの場

魅力ある健康づくりを言語化

人と人がつながる場

言語化したものを活動として具体化

し か け の 場

地域で実践

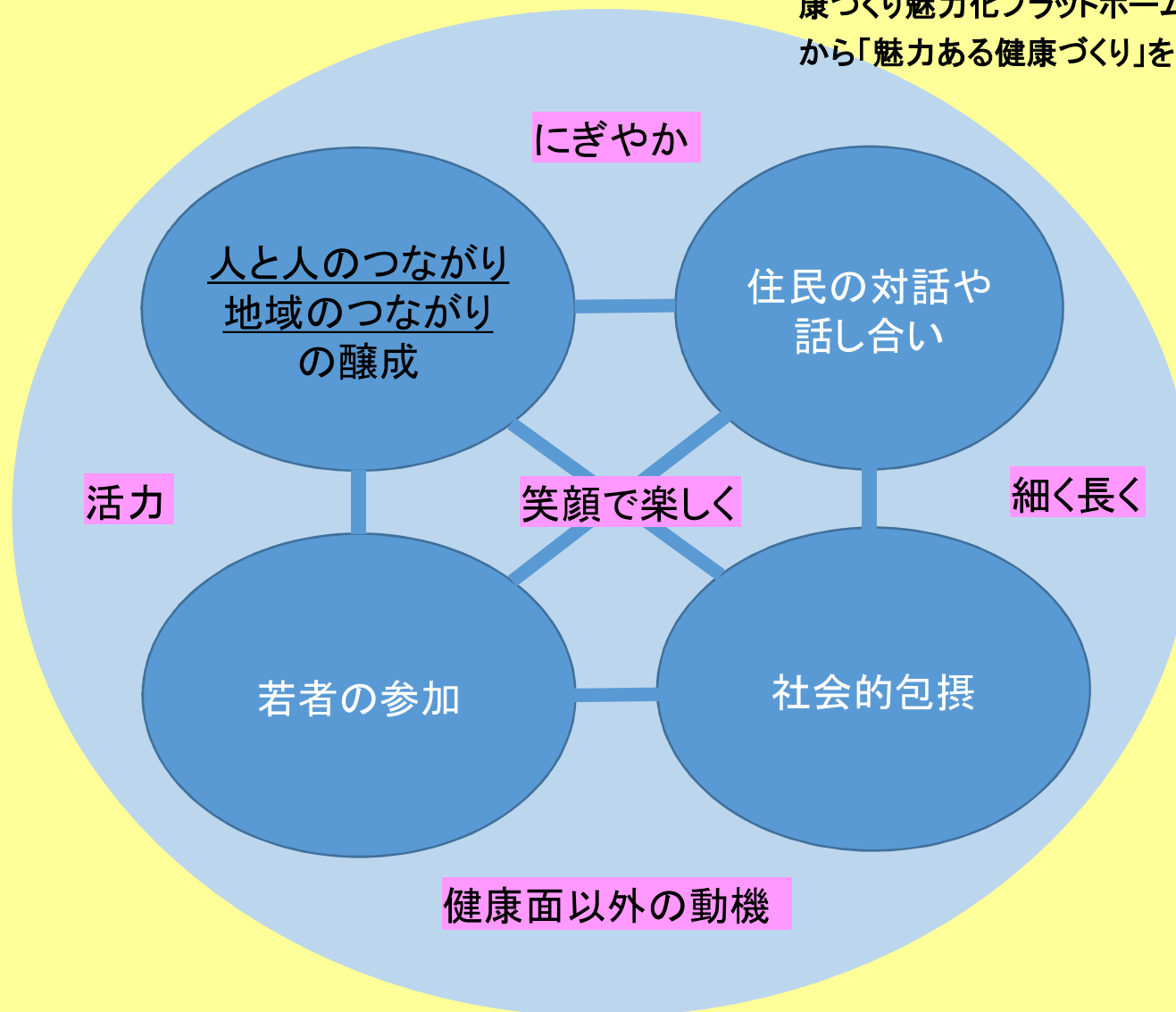
※プラットフォーム（協議体）

協議体は地域の実情に応じて地域ごとにその組織のあり方から、議論の進め方、構成員を自由に設計できるもの



魅力ある健康づくりのあり方～言語化

益田圏域健康長寿しまね推進会議や健康づくり魅力化プラットフォームの話し合いから「魅力ある健康づくり」を言語化

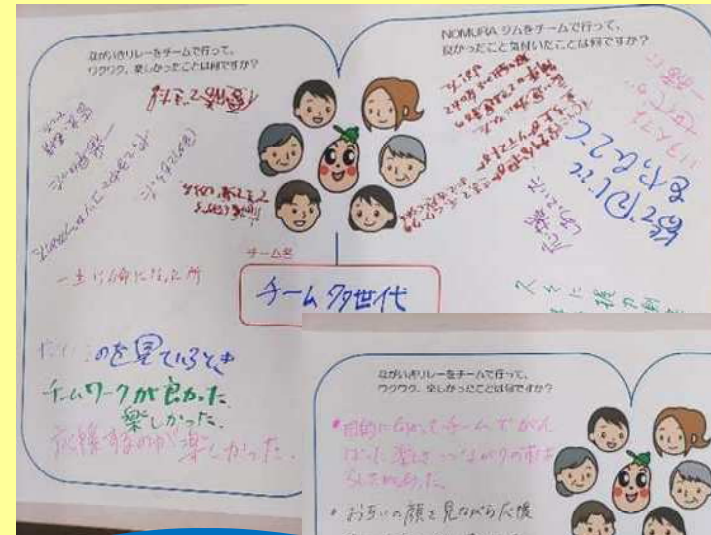


魅力ある健康づくりのあり方～具体化

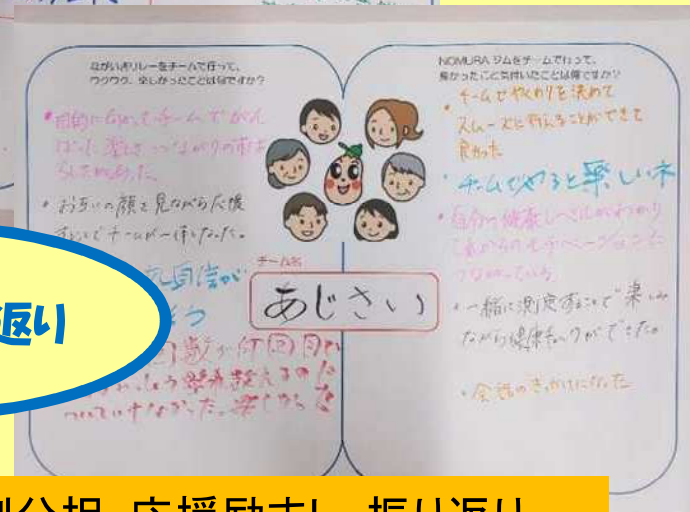
健康づくり活動表彰式及び交流会 12/9(木)

楽しく・賑やか

ながいきリレー



じっくり振り返り



つながるポイント → チームごとの作戦会議・役割分担・応援励まし・振り返り

これまでの益田圏域健康長寿しまね推進事業での対話の中から「人と人とが
つながる」を実践しました。これからも魅力ある健康づくりを探求し続け、いろい
ろな場面で**実践**していきましょう！

しまね健康寿命延伸プロジェクト

資料 1 - 2

目的 県民自ら健康づくりに取り組めるよう環境の整備を進め、健康寿命の延伸を図り、健康長寿日本一を目指す。

- ・「島根創生計画(2020年～2024年)」において、『人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根』の実現を目指している
- ・プロジェクトの1つである健康寿命延伸強化事業（モデル地区活動）では、県内7つの圏域にモデル地区を設置
- ・第1期は令和2年度～令和6年度の5年間
- ・各地区の実情にあわせて、健康寿命を延伸させ、活力ある地域づくりに繋げるための取組を進めてきた

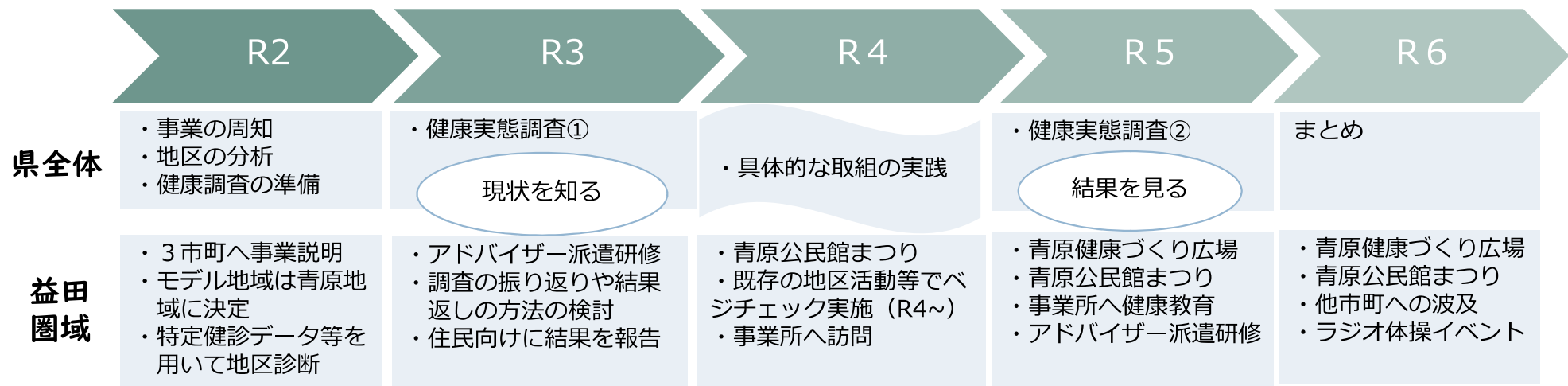


益田圏域における活動について

◇益田圏域においては、**津和野町の青原地域**をモデル地区に選定

◇地域のキーパーソンは**青原公民館、青原地域健康を守る会**

青原地域モデル地域活動のスケジュール



青原健康づくり広場の立ち上げ（R5～）

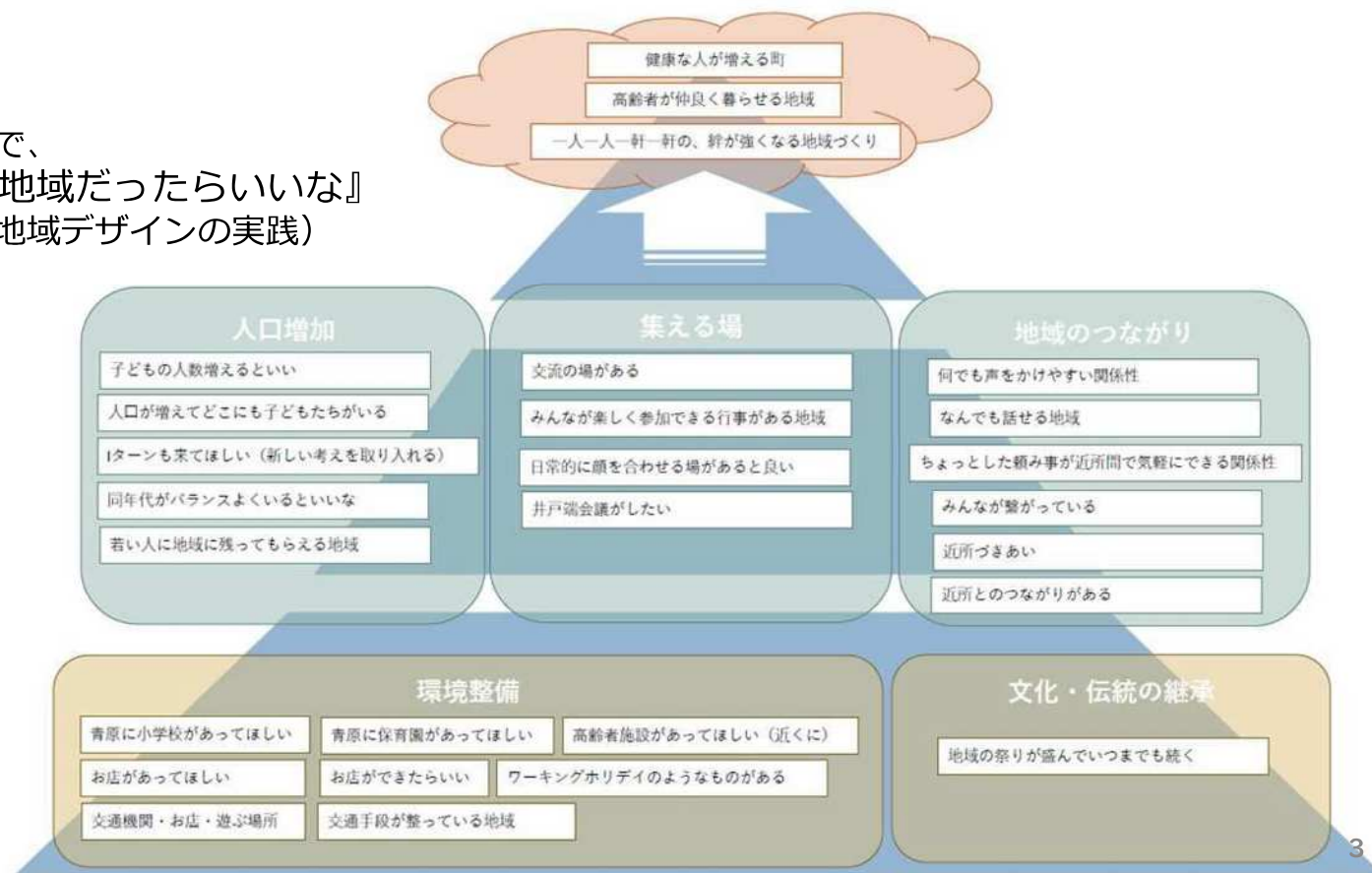
…津和野町内、青原地域の人・関係団体が

「ゆるくつながる」「学ぶ」「自由に語り合える」プラットフォーム

- ▶健康なまちづくりワークショップで、
『2040年、青原地域がこんな地域だったらいいな』
をテーマに住民と語り合った。（地域デザインの実践）



参加者数：28名



「青原にお店がほしい」



- * 公民館にセルフカフェスペース
- * 小学生が店員「青原っ子商店」

「巡回診療があるといいな」



- * 総合診療医と交流
- * ラジオ体操×医療ゆかりの地ツアー

「世代間交流、伝統文化の継承」



- * 子ども社中を結成
- * あおはら文化祭で大人と神楽披露

- ・ 青原健康づくり広場において地域デザインを実践することで語り合ってきたことや集まったアイデア（＝地域がやりたいと思うこと）が住民主体で形になっており、青原地域が目指す「2040年にありたい地域の姿」に向かって地域が自走している。
- ・ 青原健康づくり広場での学びと対話を通じて、住民同士、行政、医療機関、地元企業などつながりが広がり、一緒に活動できる仲間が増えた。

益田圏域の取組（心不全療養管理・ACPを中心に）

【産業医科大学 松田教授が示されたこと】

- 益田市は男女とも85歳以上の人口増が続く・鹿足郡はすでに人口減
- 慢性期の高齢者に対してケアを行いやすい医療・介護の提供体制の構築が必要
- 高齢者救急の対策として、心不全、肺炎、尿路感染症、脳梗塞等は、症状悪化及び発症の予兆の変化に高齢者自身・家族・介護職が注意する啓発・教育が必要



【益田地域保健医療対策会議で整理した方策の柱】

- ①圏域内医療・介護連携の充実
- ②在宅医療のあり方検討
- ③慢性疾患の管理とACP啓発について連携強化
- ④介護予防の視点で生活支援の充実



【関連する会議で共有・検討開始】

- 例 各市町の医療介護連携会議（益田市コア会議・津和野町ラーテルの会・吉賀町IK会議）
管内統括保健師連絡会
各市町の保健師等が集まる業務検討会
益田保健所内業務検討会（所長・部長・地域包括S・健康増進課・医事・難病支援課）

益田保健所 医事・難病支援課



4つの柱の取組

取り組んだこと：☆、未着手：★

柱	方向性	今年度の取組
1. 圏域内医療・介護連携の充実	・医療・保健・介護従事者が圏域の現状と課題を理解し、圏域内連携につながる役割を果たす。 ・5病院の地域連携室、看護部等と効果的な入退院連携の方策を検討する。	☆多職種研修会の開催（圏域・各市町） ☆益田圏域医療連携実務者会議の開催（圏域） ☆5病院の入退院に関するデータ収集・分析（疾病別入院者数・退院者の行先・在院日数）等
2. 在宅医療のあり方検討	・一次医療・在宅医療の進め方について、医師会・歯科医師会・行政等と定期的に検討する。 ・巡回診療の負担軽減につながる方策を検討する。（巡回診療車の導入・ネット環境整備等）	★郡市医師会・益田鹿足歯科医師会・行政の在宅医療あり方検討会の実施（郡市） ☆医療介護連携事業の充実（圏域・各市町） ☆巡回診療車の導入に関する情報収集・検討
3. 慢性疾患の症状悪化・発症の予兆について教育・啓発	・特に心疾患管理の必要性和意思決定支援（ACP）について、住民啓発を強化し、予期しない入院（緊急入院）を減らす。 ・心疾患管理について、医療・保健・介護連携につながる学習会・媒体の検討を行う。	〈住民向け啓発の強化〉 ☆地域医療・介護の現状を理解できる啓発 ☆心疾患+ACP啓発（病院・地域職域・介護） 〈医療・保健・介護従事者との連携強化〉 ☆在宅支援に訪問看護師・薬剤師等の介入を意識 ☆循環器疾患管理プロジェクトの展開（圏域）
4. 介護予防の視点で生活支援の充実	・住民自ら介護予防や疾患予防・重症化予防に取り組むことができる意識を高める。 ・各市町・圏域で、住み続けられるまちづくり・生活支援の充実に向けて、庁内連携した取り組みを増やす。	☆医療介護連携事業・生活支援体制整備事業・地域振興・交通部局等の連携につながるプラットフォームづくり（各市町・圏域） ☆支え合いフォーラムの定期的な開催（県）

生活に関わる「人」と「事業（仕事）」をつなげる+「住んでいる人」に合わせることを意識

山口県徳地診療所 視察

【目的】

- 近隣でオンライン診療の取組を進めている徳地診療所へ行って情報収集をする

【日時】

- 令和6年10月8日（火）1日

【内容】

- 講話
 - ①山口県総合医療センターの取組
 - ②徳地診療所 診療看護師
 - ③徳地診療所 所長（医師）
- 診療所・車両の見学

【参加人数】

- 益田市3名、津和野町1名、吉賀町3名、保健所1名の8名

【参考になったこと】

- ICTは、住み続けられるまちづくりの1つの道具にすぎない。導入目的・他所との連携・活用機器・カルテ等、関係者間でしっかり話し込むことが大切。益田管内は、行政・各病院・郡市医師会の目線合わせが不可欠。
- 遠隔診療だからこそ、現場にいる看護師の役割が大切。患者の寄り添い・症状等の見立て等重要な役割。
- 周辺スタッフ（メディカルアシスタント等）の育成が大切。機材トラブル、現場のアクシデント等の対応が生じる。
- 住民の理解と協力がないと成り立たない。オンライン診療の継続活用、会場準備・待ち時間の交流等の協力が大切。



オンライン診療の整備に至った経緯

【山口県立総合医療センター 原田所長】

- ・ 県立総合医療センターは、へき地医療を守るために、12名の医師が在籍。県内は山間部だけでなく、有人離島が21か所あり、へき地医療を守ることが重要。人口減少と医療の持続・診療科の偏在・高齢医師の引退後の後継が課題。
- ・ 医療DXを進めるために、山口県へき地遠隔診療推進協議会を立ち上げて、厚労省行政推進事業を活用し、2019年にオレゴン州の海外事例を視察し、Teladocを活用した鮮明な画像で遠隔診療を参考。
- ・ 遠隔診療の外回りを支えるメディカルアシスタントを育成し活用。またMCSを使って、コミュニケーションを図っている。
- ・ 現在の遠隔のイメージは、オーストラリアのクイーンズランド州エメラルドで行っているTele Health Room（へき地オンライン診療・必要時対面）だった。看護師が患者の傍にいて、患者の安心につながり、優先順位をつけた診療につながる。
- ・ 県内で周南市と離島1か所で郵便局を活用したオンライン診療＋薬局を開始。また、休日診療所の診療を山口市医師会と東京の病院（医師が山口出身）が提携しオンライン診療を開始
- ・ 共通したクラウド型電子カルテ（きりんカルテ）を活用。



オンライン診療の実際①

【徳地診療所 中山診療看護師】

- 車で家の前まで行こうかと思ったが、そうすると家に閉じこもるので、**家から受診のために出かけること＋看護師とおしゃべりすることでフレイル対策につなげようと考えている。**
- オンライン診療には、看護師2名と事務1名が対応。
1人が待合・1人が診療車へ乗り込む介助・1人が診療介助をしている。
- **看護師が行くことで、心身と生活の困りごとを把握し相談に乗れること・予防の視点でアドバイスできることがメリット。**
- タブレットではなく大画面モニターがあることで、お互い良く見える。また、カメラを高性能にし、クリアな画像を撮るようにしている。
- 薬の処方は、医師が仮処方箋を作成し看護師が確認。
処方を薬剤師に伝える。薬は宅配。



オンライン診療の実際②

【徳地診療所 中島所長】

- ・ 徳地診療所は、80代の医師が閉院希望され、後継した。今年で丸3年。医療を維持するために医療DXをスタート。
ICTを使うことは目的ではない。ICTを有効に活用し、持続可能なまちづくりを進めることがゴール。
また、地域医療に関心のある医師・看護師育成も欠かせない。
- ・ 通院の不便なところは、患者が受診を我慢する。症状が悪化して救急車で搬送。もっと早く受診出来たら予後が変わると思った。
- ・ オンライン診療は、医師が現地に行く時間は減らせるが、心身と生活の問題が捉えづらい。そこを看護師がサポートしてくれるから成り立つ。
- ・ 診療の中で、一部自費が発生する（材料費等）が、本人の同意を得ている。
- ・ 自分たちだけでは、ここまで進まなかった。
トヨタの協力で、ハイエースを改造できた。
車を共同使用に出来たら収益が上がると思う。
また、wemexの協力でクラウド型電子カルテが完成。
費用は半分国の補助。ランディングコストは76万円。
- ・ 今後、自宅用の回線を充実するため、スターリンクを導入。集会所は、DOCOMO回線で大丈夫。



益田圏域心不全管理プロジェクト 取組

【目標】 「想定内入院につなげる」
「悪化の予兆を見逃さない」

240909日赤と他病院・
開業医の意見交換会

- 心不全管理の方向性、役割分担について 目線合わせ

- ・ 益田日赤
- ・ 益田医師会病院
- ・ 津和野共存病院
- ・ よしか病院
- ・ 益田市医師会
- ・ おちハートクリニック
- ・ 黒田医院
- ・ 鹿足郡医師会
- ・ 益田保健所

- ・ 益田日赤
- ・ 益田医師会病院
- ・ 津和野共存病院
- ・ よしか病院
- ・ 益田市医師会
- ・ おちハートクリニック
- ・ 黒田医院
- ・ 鹿足郡医師会
- ・ 益田保健所

241003
ShimaneConnect Forum
益田

- 心不全治療の学習
- （島根大学医学部付属病院 田邊先生）
- 圏域の心不全連携の展開について意見交換

250128 多職種研修会

- 心不全管理の学習
- （益田赤十字病院 内田先生の講演）
- 従事者向け共通媒体の活用について意見交換

- ・ 開業医、管内病院医師・看護師
- ・ 薬剤師、管理栄養士
- ・ 訪問看護師
- ・ ケアマネジャー・介護職
- ・ 行政保健師 等

250227 循環器担当者会
医療介護連携部会

- 保健・医療・介護関係者の情報共有・意見交換

- ・ 各病院
- ・ 職能団体
- ・ 郡市医師会
- ・ 専門医師
- ・ 行政 等

（しまこね の検討要旨）

- ☆心不全手帳+心不全シートの活用で、ケアマネ・訪問看護・保健師等が早期に体調の変化に気づき、医療につなげる。
- ☆開業医で難しい心機能評価や薬の調整は、益田赤十字病院循環器科に相談し、病診連携する。（連携パス運用も検討）
- ☆体調が良くなった高齢者に対し、服薬・疾患管理と生活支援を充実し、最期まで益田地域で暮らせる仕組みを検討する。

☆心不全手帳の活用+要注意のサインの共有←適切なケアマネジメント手法との整合性
☆日赤循環器外来の活用+想定した入院のルール作り

早期受診を促し再入院を減らす方策 ～心不全シートの活用～

(3) 心疾患のある方のケア

心疾患は、症状が重篤な場合、急死のリスクがあるため、早期に医療機関を受診することが重要です。また、心疾患は、生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症）と関連しているため、これらの疾患の管理も重要です。

【1】（医師の診察を受ける）

医師の診察を受ける際は、心疾患の症状（胸痛、呼吸困難、むくみなど）を詳しく説明し、医師の指示に従ってください。

【2】（医師の診察を受ける）

医師の診察を受ける際は、心疾患の症状（胸痛、呼吸困難、むくみなど）を詳しく説明し、医師の指示に従ってください。

【3】（医師の診察を受ける）

医師の診察を受ける際は、心疾患の症状（胸痛、呼吸困難、むくみなど）を詳しく説明し、医師の指示に従ってください。

益田圏域版心不全シート＋心不全手帳で体調管理



↓
心不全手帳
製薬メーカーの手帳活用

早期受診を促し再入院を減らす方策 ～心不全シートの活用～

毎日の記録①													
年	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
月/日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
体重(kg)													62
血圧 (朝)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	120/60
(夜)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	80
寝る前	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	130/70
(朝)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	75
息切れ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
むくみ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
疲れやすさ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
食欲低下	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
不眠	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
運動 (○か×で記入)													
服薬チェック	朝	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
昼	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
夕	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
メモ													

あなたの適正体重は●kg
1週間以内に2-3kg以上増加があれば相談

体重の増加 ⇒ かかりつけ・訪問看護師に相談

脈拍数 120以上 ⇒ すぐに救急外来を受診

安静時呼吸苦 ⇒ すぐに救急外来を受診

症状 1つ以上 ⇒ 次の外来受診時に相談
(1ヶ月以上先なら一度電話相談)

【毎日の生活で気をつけること】 ※主治医に確認してみましょう
①
②
③

――緊急連絡先――
●●●● : XXXX-XX-XXXX
●●●● : XXXX-XX-XXXX

↓
心不全シート
益田日赤循環器科 内田先生作成

250128 心不全多職種研修会 グループワークの声

①内田先生に質問

Q 入退院を繰り返す一番の理由は？

A 世話をしてくれる人がいないこと。過活動になること。薬が飲めていないこと。
特に、独居・老々夫婦でサービスが入らない人こそ、多職種支援が入ると嬉しい。

②圏域心不全手帳・心不全シートの活用方法

(ツールの共通化・一本化)

- ・地域共通の手帳は必要。様々な手帳を持つ人は、1つにする。
- ・70歳代前後から意識づけを（意識の高い人、取り組みそうな人から。）
(みんなが一目でわかる掲示)
- ・注意点を1枚にして冷蔵庫に貼ると、支援者も分かりやすい。

③心不全療養連携について

(生活支援の必要性)

- ・介護保険のサービスで、心不全患者が使えるサービスがない場合が多い。
介護保険以外のサービスが必要。（ステージごと、薬剤師・栄養士介入）
(指導内容の継続確認)
- ・入院中に指導したことが、退院してからも続いているか、具体的な確認が難しい。
(特に食事と運動量)

④ACP

- ・ACPが大切。本人・家族にだんだん悪くなることへの理解ができるような働きかけ・地域で進めることが必要。

⑤若い時からの予防

- ・心不全になってからではなく、若いうちからの食生活習慣の見直しが必要。
- ・高齢になってからの減塩が難しい。減塩の調味料の紹介等無理のない減塩指導が必要



益田地域ACPを真剣に考えようの会 取組

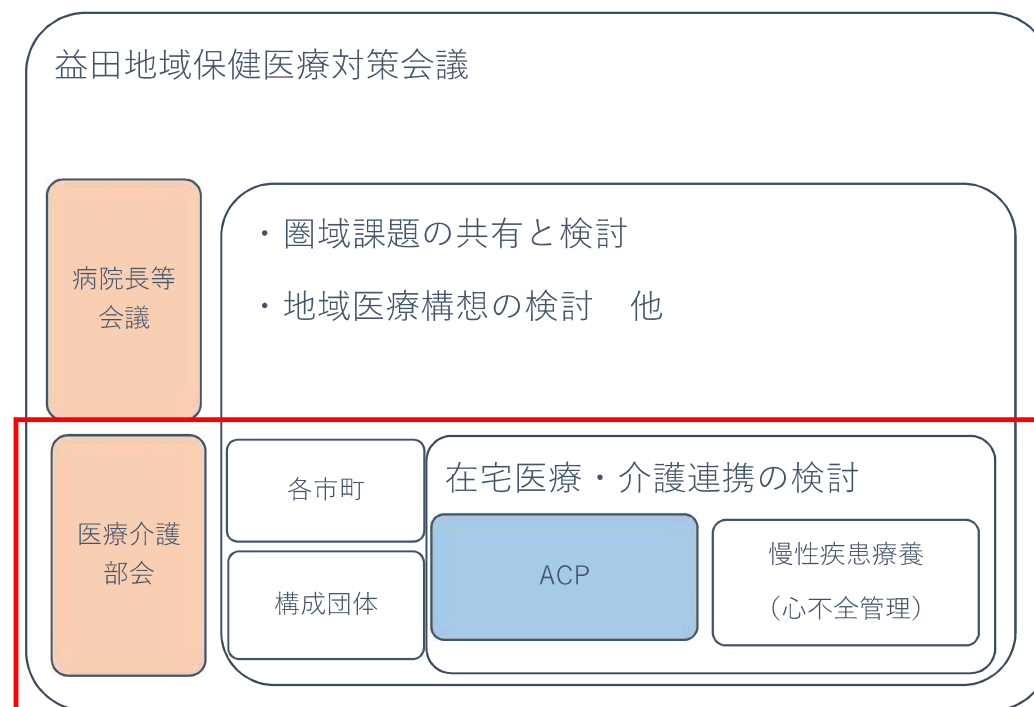
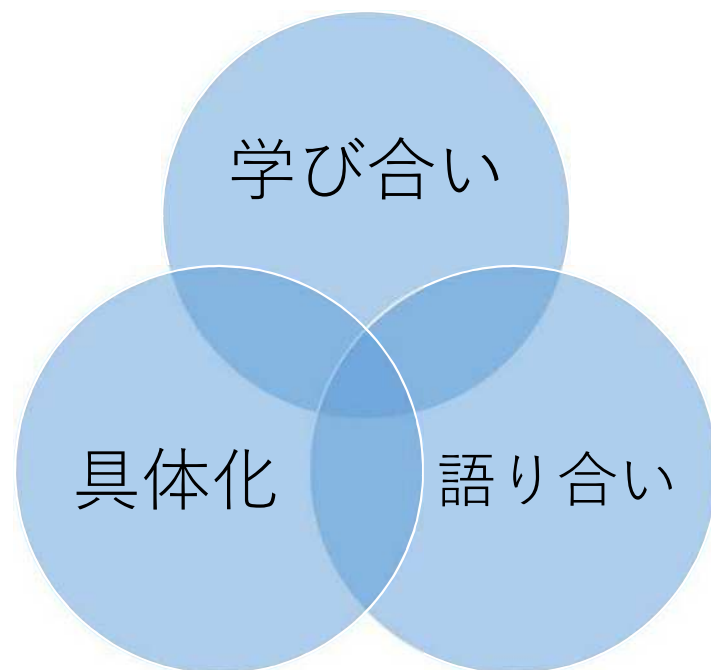
☆現在計6回開催（今のところWEB開催・年度内に集合形式で語り合い企画予定）

☆管内5病院（益田赤十字病院・益田医師会病院・津和野共存病院・よしか病院・松ヶ丘病院）

・3市町医療介護担当課・訪問看護ステーション協会・ケアマネ協会が参加・保健所が事務局

【プラットフォームで動かす】

【会議の整理】既存の会議と連動して動かす



☆学び合いチーム：研修企画実施

☆具体化チーム：ACPツール・連携方法等の検討

☆語り合いチーム：医療保健介護関係者との意見交換

○打ち上げ花火で終わらせない！

○みんなで考えて、動いている実感！

直近の運用状況 (R7.2月現在)

◆詳細版

●地域啓発版（思いをつなげるシート）

〈津和野町〉

- ◆津和野共存病院
 - ・外来、健診時に医師が説明
 - ・巡回診療で活用
 - ・地域啓発・教室で活用
- ◆●鹿足郡医師会（津和野町・吉賀町）
 - ・定例会で情報提供
- 津和野町
 - ・各種研修会等で配布
 - ・健康寿命延伸PJ（青原地区）でPR

〈益田市〉

- ◆益田赤十字病院
 - ・救急外来で作成のち、後方支援病院（津和野共存病院・よしか病院）へ情報提供をスタート
- ◆●益田市医師会
 - ・地域啓発（あんきな座談会）で活用
- ケアマネ協会（益田市・鹿足郡）
 - ・協会研修会で情報提供
- 益田市
 - ・定期的に広報誌等に掲載
 - ・地域活動や介護予防事業等で周知
 - ・益田の医療を守る市民の会学習会でPR

〈益田保健所〉

- あらゆる会議、イベントでPR
- 看護協会・訪問看護ステーション協会定例会でPR・情報交換
- 3市町と一緒に、
「年末年始、帰ってきた家族と人生会議をしてみませんか」
キャンペーンを実施（今後も年末年始・お盆期間に実施）

〈吉賀町〉

- ◆よしか病院
 - ・外来、巡回診療等で活用
 - ・より細かな医療処置の希望を確認（独自様式）
- 吉賀町社協（地域包括支援センター）
 - ・研修会等で配布
- 吉賀町
 - ・定期的に広報誌・公式LINE等に記載
 - ・よしかの地域と医療をつなぐ会でPR

〈地域啓発版〉



記入日： 年 月 日

書き直した日： 年 月 日

Step0.あなたの代わりに意思決定してくれる人を選びましょう。

あなたの代わりに意思決定をしてくれる方は、いますか？

☐ はい ☐ いいえ （どちらか選んで下さい）

本人氏名： _____

代理人氏名： _____

※代理人は複数名記入していただいてもかまいません



かかりつけ医（主治医）氏名： _____

益田圏域で ACP を真剣に考えよう
圏域 地域啓発版

〈詳細版〉

〔人生会議 ACP について〕

記入日

ID 氏名 様 性別 年齢

病名 問題点： _____

参加者

- 1) 患者背景（要介護度およびこれまでの経過）：
- 2) 入院時の問題点および医学的判断に基づく今後の予想される経過
- 3) 本人の病状の理解および意思：
- 4) ご家族の意向：キーパーソン：
- 5) 状態が悪化した場合の対応について：
 - ア) 疾患や衰弱により食事が摂取できなくなった場合の対応
 - イ) 病気や衰弱により、呼吸や心臓が止まった場合の対応
- 6) その他

益田圏域の医療データ

島根県益田保健所 医事・難病支援課

【R7.3.13 令和6年度 第1回 益田地域保健医療対策会議資料】

(R7.2.27 益田地域保健医療対策会議 医療・介護連携部会資料)

1

まとめ

①益田圏域の病床機能の状況

- ・地域医療構想の必要病床数と比べると、全体では概ね同程度まで病床が削減。ただし急性期は多く、慢性期は少ない。
- ・H26年から病床数は3割減少しているものの、病床利用率に大きな変化はなかった。

②病床機能別の圏域内完結率

- ・急性期から回復期までの入院医療における圏域内完結率は9割程度と高い。
- ・一方で、慢性期入院については、圏域内の完結率が低く、浜田圏域や山口県の医療機関への流出が多くなっている。

③夜間・休日の受診患者数、救急車受け入れ状況

- ・救急搬送件数は増加しており、65歳以上が8割弱を占めている。
- ・益田赤十字病院を中心に圏域内の医療機関で、救急搬送の9割以上を受け入れている

④高齢者に多い循環器疾患・脳卒中・がんなどの圏域内における高度治療状況

- ・虚血性心疾患に対するカテーテル治療や脳梗塞に対するrt-PA療法等の緊急性が高い治療もほとんどカバーされている。
- ・脳血管内手術などの脳神経外科領域の治療は、浜田圏域や山口県などの医療機関に流出している
- ・有病率の高いがんに対する手術の多くが圏域内で実施され、外来化学療法も半数以上の患者をカバーしている。
- ・肺がんなど一部のがんに対する手術や放射線治療については、出雲・浜田圏域や山口県の医療機関に流出している

⑤益田圏域の医療需要推計

- ・今後はほとんどの診療について需要が減少していくと予想され、特に外来診療で顕著である。
- ・益田市では、85歳以上の高齢者が増加する2040年頃に慢性期入院や在宅医療の需要がピークを迎えると予想される。

2

①益田圏域の病床機能の状況

- ・病床機能報告（H26～R6）
- ・病院報告（H26～R5）

3



- ・地域医療構想開始から約10年で、886床から628床と病床数が約7割程度まで減少した。
- ・病床機能別にみると、急性期と慢性期の病床は減少し、回復期の病床が増加した。

4

(出典元：令和5年度病床機能報告)

益田圏域の病床機能の状況（令和5年7月1日時点）

医療法の位置づけ		一般病床		療養病床		一般病床		病床数計
病床機能		高度急性期	急性期	回復期	慢性期			
入院医療機関	益田赤十字病院	40	236					276
		ハイケアユニット入院医療管理料1:4床 急性期一般入院料1:36床	急性期一般入院料1:132床 ■小児入院医療管理料4:45床					
	益田地域医療センター 医師会病院		60	60	44	44	45	253
			急性期一般入院料4	地域包括ケア病棟入院料2	回復期ハイケア病棟入院料3	療養病棟入院料1	特殊疾患病棟入院料1	
	津和野共存病院			49				49
				急性期一般入院料6 ■地域包括ケア入院医療管理料1:36床				
	六日市病院		50			49		99
			地域一般入院料1			療養病棟入院料1		
病床数計		40	346	109	44	93	45	677
(参考) 地域医療構想必要病床数		高度急性期 47	急性期 214	回復期 179		慢性期 173		計 613

(出典元：令和6年度病床機能報告)
※速報版

益田圏域の病床機能の状況（令和6年7月1日時点）

医療法の位置づけ		一般病床		療養病床		一般病床		病床数計
病床機能		高度急性期	急性期	回復期	慢性期			
入院医療機関	益田赤十字病院	40	236					276
		ハイケアユニット入院医療管理料1:4床 急性期一般入院料1:36床	急性期一般入院料1 ■小児入院医療管理料4:45床					
	益田地域医療センター 医師会病院		60	60	44	44	45	253
			急性期一般入院料4	地域包括ケア病棟入院料2	回復期 ¹⁾ ハイケア病棟入院料3	療養病棟入院料1	特殊疾患病棟入院料1	
	津和野共存病院			49				49
				急性期一般入院料6 ■地域包括ケア入院医療管理料1:36床				
	よしか病院			50				50
				地域一般入院料1 ■地域包括ケア入院医療管理料1:36床				
病床数計		40	296	159	44	44	45	628
(参考) 地域医療構想必要病床数		高度急性期 47	急性期 214	回復期 179	慢性期 173			計 613

・六日市病院の廃止、よしか病院の開設に伴い、急性期50床、慢性期49床減少し、回復期50床増加した

(出典元：令和5年度病床機能報告)

病棟別の使用病床数（令和4年度）

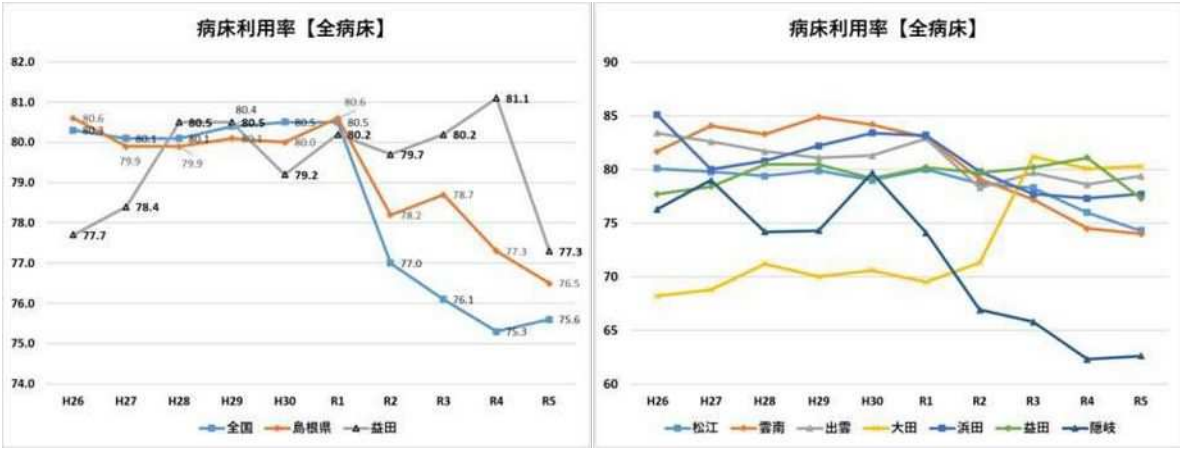
医療機関名	病床機能	病棟名	許可病床数	最大使用病床数	最小使用病床数	最大使用病床数 ／許可病床数
益田赤十字病院	高度急性期	HCU	4	4	0	100%
		3階東病棟	36	36	18	100%
	急性期	3階西病棟	48	48	31	100%
		4階西病棟	51	50	33	98.0%
		4階東病棟	45	42	10	93.3%
		5階西病棟	43	37	0	86.0%
		5階東病棟	49	48	35	98.0%
益田地域医療センター 医師会病院	急性期	4階病棟	60	50	24	83.3%
	回復期	回復期リハビリテーション病棟	44	40	27	90.9%
		地域包括ケア病棟	60	48	30	80.0%
	慢性期	特殊疾患病棟	45	43	35	95.6%
		療養病棟2階	44	43	36	97.7%
津和野共存病院	回復期	2階病棟	49	47	32	95.9%
六日市病院	急性期	2階病棟	50	50	24	100%
	慢性期	3階病棟	49	49	36	100%

※青字は療養病床

(出典元：病院報告H26～R5)

病床利用率の推移（H26～R5）

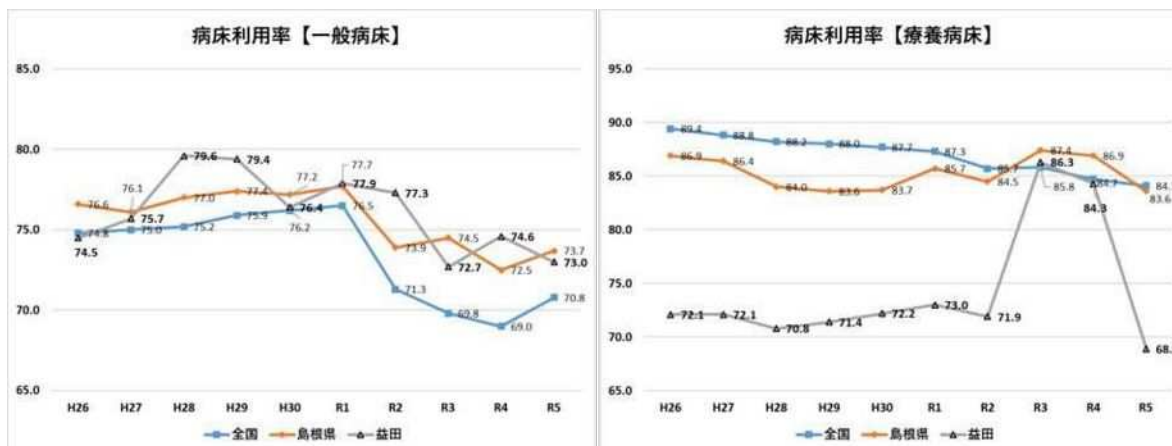
※ 病床利用率（％）＝年間在院患者延数÷（運用病床数×365）×100



・ R2年以降は全国的に病床利用率が低下しており、一因として新型コロナウイルス感染症の影響が考えられる。
R5年もコロナ前の水準には回復していない。

(出典元：病院報告H26～R5)

病床利用率の推移（H26～R5）

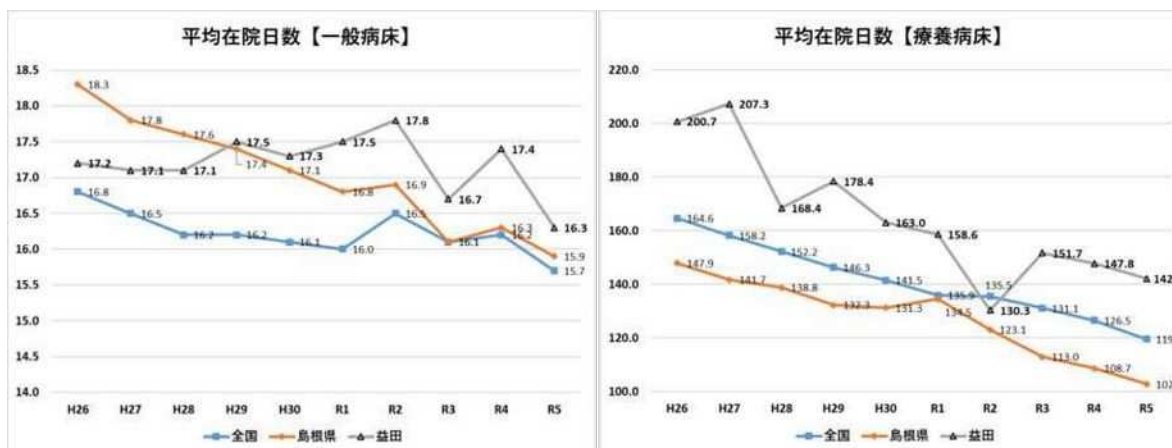


- ・益田圏域の一般病床の病床利用率については、概ね全国や島根県と同様の傾向を示している
- ・R3～R4年を除いて、療養病床の病床利用率は、全国と比べて低い水準で推移している。

9

(出典元：病院報告H26～R5)

平均在院日数の推移（H26～R5）



- ・全国的に、平均在院日数は一般病床・療養病床ともに短縮化する傾向にある。
- ・益田圏域では、特に療養病床での短縮化が顕著であるが、全国平均よりは長い日数で推移している。
- ・平均在院日数の短縮も、病床利用率の低下の一因になっていると考えられる。

10

②病床機能別の圏域内完結率

・EMITAS-G（医療・介護・保健情報統合分析システム）
（国民健康保険及び後期高齢者医療保険のレセプトデータ）

国保・後期

圏域内完結率（急性期入院医療）

取扱注意

急性期入院医療 （急性期一般・地域一般）	益田市			津和野町			吉賀町		
	H30-R1	R2-R3	R4-R5	H30-R1	R2-R3	R4-R5	H30-R1	R2-R3	R4-R5
取扱注意のデータにつき、非表示									
合計 ※（ ）内は益田圏域完結率	1392 (84.7%)	1107 (83.1%)	1525 (88.1%)	984 (88.3%)	904 (87.1%)	865 (90.5%)	1858 (93.5%)	1674 (94.1%)	1512 (94.6%)

レセプト名称

A1001急性期一般入院料1, A1001急性期一般入院料2, A1001急性期一般入院料3, A1001急性期一般入院料4, A1001急性期一般入院料5, A1001急性期一般入院料6（特例）, A1001急性期一般入院料6（経過措置）, A1001急性期一般入院料6（診療報酬上臨時的特例）, A1001急性期一般入院料7, A1002地域一般入院料1, A1002地域一般入院料1（特例）, A1002地域一般入院料1（診療報酬上臨時的特例）, A1002地域一般入院料2, A1002地域一般入院料2（特例）, A1002地域一般入院料2（診療報酬上臨時的特例）, A1002地域一般入院料3, A1002地域一般入院料3（特例）, A1002地域一般入院料3（診療報酬上臨時的特例）, A1003（測）地域一般入院料1, A1003（測）地域一般入院料3, A1003（測）急性期一般入院料1, A1003（測）急性期一般入院料2, A1003（測）急性期一般入院料4, A1003（測）急性期一般入院料5, A1003（測）急性期一般入院料6, A1003（測）急性期一般入院料7

③夜間・休日の受診患者数、救急車受け入れ状況

- ・ R5年度外来機能報告
- ・ 益田広域消防「消防年報」(H30～R5)

15

(出典元：令和5年度外来機能報告)

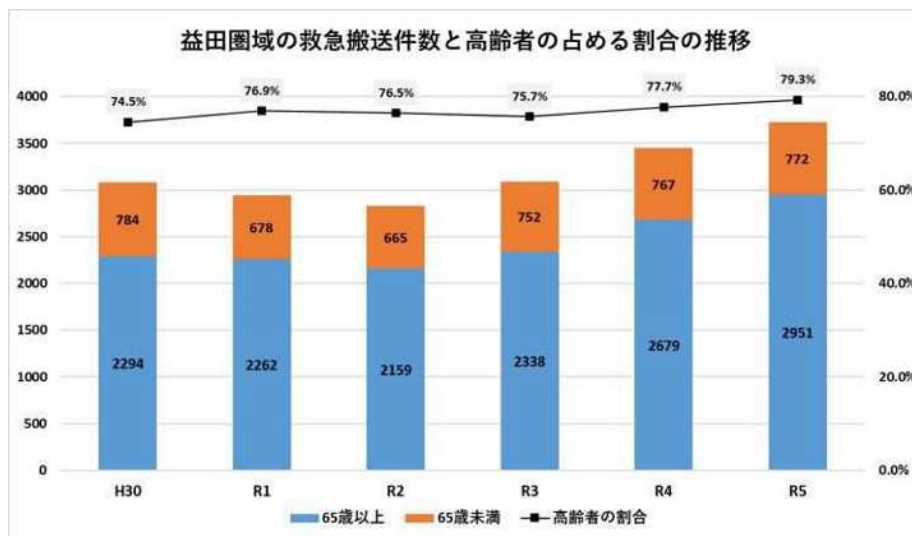
救急医療の状況 (R4年度)

医療機関名	休日に受診した患者延べ数(年間)		夜間・時間外に受診した患者延べ数(年間)		救急車の受入件数 (年間)
		(うち、診療後直ちに入院 となった患者延べ数)		(うち、診療後直ちに入院 となった患者延べ数)	
益田赤十字病院	1875	458	3194	2004	2964
益田地域医療センター 医師会病院	514	*	660	*	449
津和野共存病院	*	*	0	0	*
六日市病院	513	*	690	*	255

※10件未満の月がある場合は、年間計も秘匿化(＊)して掲載

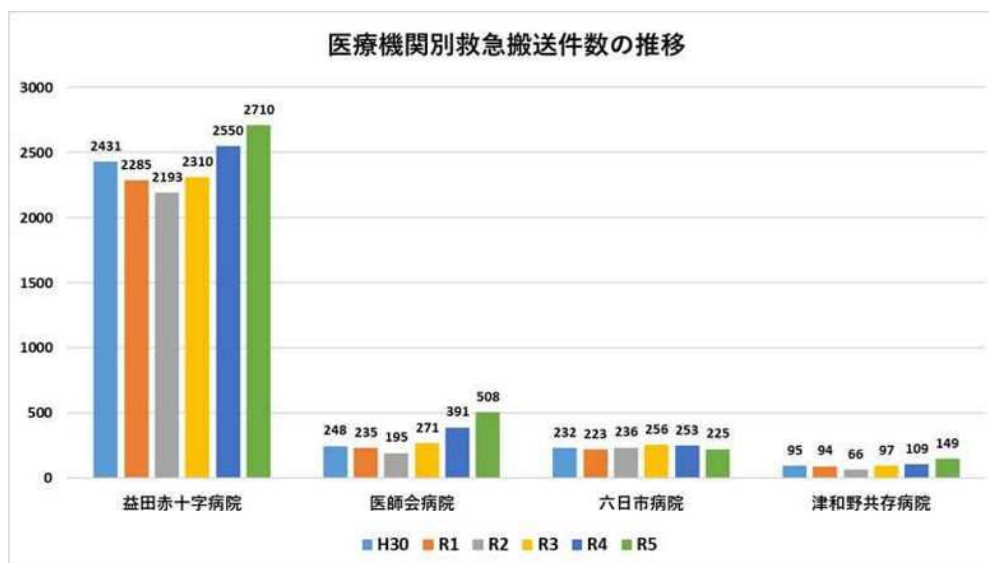
16

(出典元：益田広域消防本部 消防年報H30～R5)



17

(出典元：益田広域消防本部 消防年報H30～R5)



18

(出典元：益田広域消防本部 消防年報R5)



19

④高齢者に多い循環器疾患・脳卒中・がん等の圏域内における高度治療状況

- ・第9回NDBオープンデータ（2022年度分）
- ・EMITAS-G（国保・後期高齢者）

20

主な診療行為別実施状況（令和4年度） （虚血性心疾患に関する手術）

診療行為コード	診療行為	全国 総計 (算定回数)	益田圏域		
			算定回数	SCR	95%CI
150374910	経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞に対するもの）	9,584	19	3.50	3.05 - 3.95
150375010	経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症に対するもの）	5,483	-	-	-
150375110	経皮的冠動脈形成術（その他のもの）	26,259	36	2.40	2.07 - 2.72
150260350	経皮的冠動脈粥硬質切除術	1,455	0	0.00	-
150284310	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） （高遠回転式経皮経管アテクトミーカテーテルによるもの）	16,156	0	0.00	-
150359310	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） （エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの）	1,739	0	0.00	-
150375210	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞に対するもの）	23,044	-	-	-
150375310	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症に対するもの）	27,078	-	-	-
150375410	経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	114,449	-	-	-
150145910	冠動脈、大動脈バイパス移植術（1吻合のもの）	1,935	0	0.00	-
150146010	冠動脈、大動脈バイパス移植術（2吻合以上のもの）	6,301	0	0.00	-

※SCR：標準化レセプト出現比
 全国を基準として、性・年齢を調整した上で算出した期待値で実際の算定回数を除したものの表示
 ※算定回数が1-9の場合は「-」として表示（SCR計算不可）

主な診療行為別実施状況（令和4年度） （その他の心・脈管に関する手術）

診療行為コード	診療行為	全国 総計 (算定回数)	益田圏域		
			算定回数	SCR	95%CI
150346710	経皮的カテーテル心筋線縮術 （心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの）	92,629	0	0.00	-
150153810	四肢の血管拡張術・血栓除去術	54,673	-	-	-
150149110	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）（1日につき）（2日目以降）	47,482	12	0.45	0.01 - 1.01
150147610	人工心臓（1日につき）（初日）	43,722	0	0.00	-
150416410	末梢動静脈造設術（内シャント造設術）（単純なもの）	39,093	34	1.53	1.19 - 1.86
150140210	ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）	35,487	13	0.56	0.02 - 1.11
150416610	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	34,580	57	2.76	2.50 - 3.02
130009170	中心静脈注射用植込型カテーテル設置（順頸部その他に設置した場合）	25,352	12	0.73	0.17 - 1.30
150360410	植込型補助人工心臓（非拍動流型）（91日目以降（1日につき））	23,927	0	0.00	-
150140410	ペースメーカー交換術	22,634	14	0.90	0.38 - 1.43

※SCR：標準化レセプト出現比
 全国を基準として、性・年齢を調整した上で算出した期待値で実際の算定回数を除したものの表示
 ※算定回数が1-9の場合は「-」として表示（SCR計算不可）

主な診療行為別実施状況（令和4年度）
（がんに関する手術）

診療行為 コード	診療行為	全国 総計 (算定回数)	益田圏域		
			算定回数	SCR	95%CI
150316510	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））	36,012	26	1.41	1.02 - 1.79
150358810	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	21,363	0	0.00	-
130010250	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用持続型カテーテル設置（頭頸部その他）	48,432	60	2.30	2.04 - 2.55
150376810	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	20,817	16	1.28	0.79 - 1.77
150323010	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 （早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術）	49,304	34	1.16	0.83 - 1.50
150323510	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	13,215	11	1.43	0.84 - 2.03
150324910	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	47,176	41	1.49	1.18 - 1.80
150363910	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	29,643	12	0.73	0.17 - 1.30
150365110	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	74,701	45	1.00	0.71 - 1.30
150390310	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	24,172	0	0.00	-
150270010	子宮附件悪性腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡によるもの）	50,749	20	1.03	0.59 - 1.47

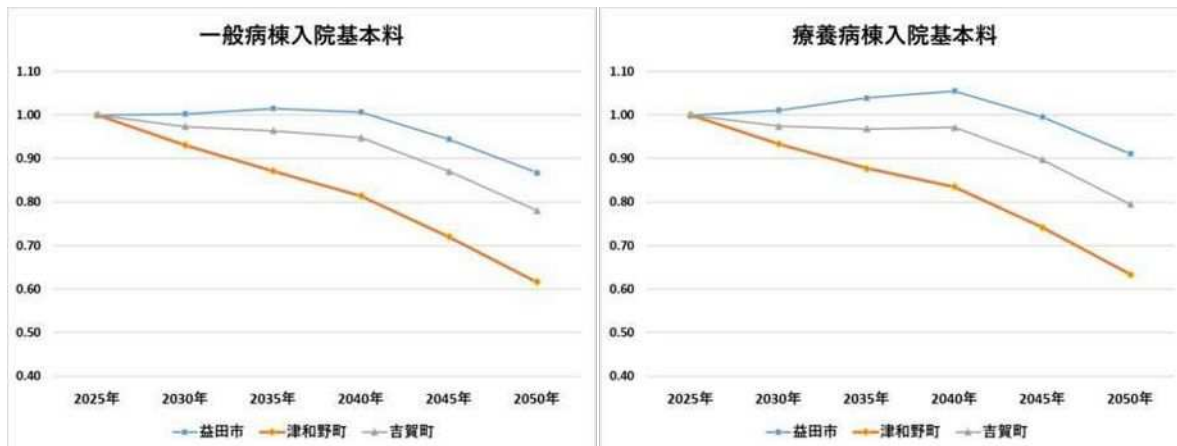
※SCR：標準化レセプト出現比
全国を基準として、性・年齢を
調整した上で算出した期待値で
実際の算定回数を除したもの
※算定回数が1-9の場合は「-」
として表示（SCR計算不可）

⑤益田圏域の医療需要推計

- ・第9回NDBオープンデータ（2022年度分）
- ・国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

今後の医療需要の推計（2025～2050年）

※令和4年度の診療（全国基準）より推計

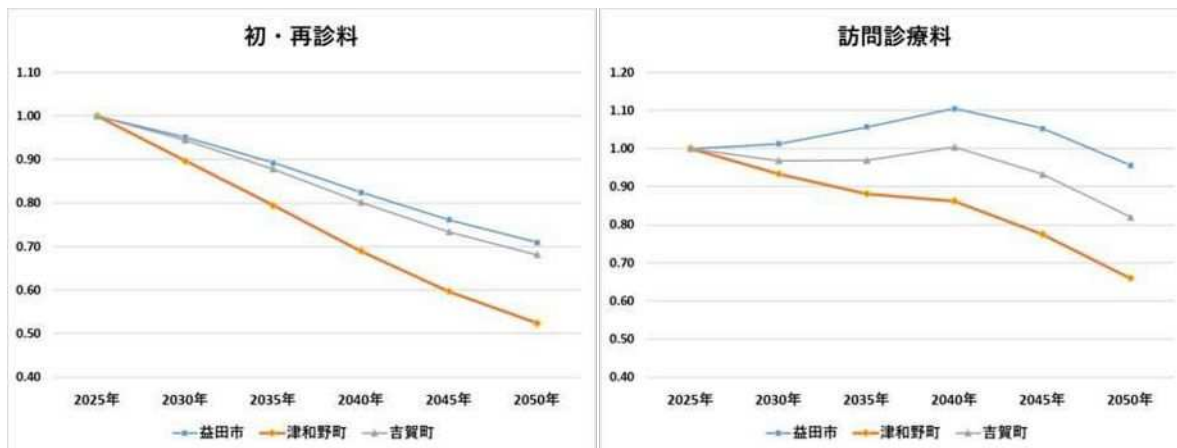


- ・津和野町及び吉賀町の入院医療に関する需要は既にピークを迎えており、今後も減少すると予測される
- ・益田市では2040年ごろまで横ばい（療養病棟の需要はやや増）であるが、その後減少すると予測される

25

今後の医療需要の推計（2025～2050年）

※令和4年度の診療（全国基準）より推計



- ・外来診療の需要は3市町いずれも減少し、特に津和野町では2050年ごろには現在の半分程度と予測される
- ・訪問診療（在宅医療）の需要については、益田市では2040年にピークを迎えると予測される

26

各団体の取組報告【まとめ】

R7.2. 末現在

項目	令和6年度の取組状況
①医療連携体制	・益田の医療体制に関する学区集会の実施。島根県保健医療計画を基に毎回テーマを設定し、市民の参加を呼びかけ、2ヶ月に一回実施。今年度は9月、11月、1月、3月の4回実施。（②についても同様）【益田の医療を守る市民の会】 ・医療法人橘井堂の木谷統括管理監を講師にお招きし、津和野町の医療・介護構想についての研修会を実施。【津和野町の医療を守り支援する会】 ・津和野町コミュニティドクター等により、まめネット登録への呼びかけを実施。【津和野町】
②医療に関する情報提供の推進	・該当年度の活動状況等を掲載したパンフレットを作成し、町内各戸配布する。【津和野町の医療を守り支援する会】 ・R6年2月に「吉賀町の地域と医療をつなぐ会」を設立。医療を守り支える活動を行う住民団体としては吉賀町で初めて。R6年3月のよしか病院開設を契機に、住民が主体的に地域医療について学び考えるとともに、地域の医療機関、行政等を「つなぐ」ことで医療従事者を支える輪を構築し、地域の医療・介護を支援するための取り組みを行う。【吉賀町の地域と医療をつなぐ会】 ・R6年5月12日に設立記念シンポジウムを開催。よしか病院をはじめ、地域の医療介護企画参画によるパネルディスカッション及び地域住民との交流会を実施。【吉賀町の地域と医療をつなぐ会】 ・その他、よしか病院や町等と連携し、小学生児童を対象とした夏季交流イベント（よしか病院医師による講演会・病院探検ツアー）や、「よしかオータムセミナー」等の各種イベントに取り組んだ。（イベントの様子はYouTubeにて配信中）【吉賀町の地域と医療をつなぐ会】 ・「よしか病院・よしか介護医療院開設1周年記念イベント」（3月20日開催予定）を町、よしか病院と企画。【吉賀町の地域と医療をつなぐ会】 ・よしか病院を中心とした「つなぐプロジェクトチーム」に参画し、よしか病院を拠点に地域医療に関する啓発活動等の取り組みについて協議を行っている。【吉賀町の地域と医療をつなぐ会】 ・住民組織「津和野町の医療を守り支援する会」に対し、津和野町の医療状況等の情報提供を定期的に行っている。【津和野町】
⑧救急医療	・②で紹介したパンフレットの中に、つわの健康ダイヤル24事業について掲載する。【津和野町の医療を守り支援する会】 ・津和野共存病院は救急告示病院ではないため、益田赤十字病院等への搬送が基本となるが、患者の状態によっては診療を実施。つわの健康ダイヤル24事業による電話相談の実施。【津和野町】 ・新規救急救命士養成研修（1名）及び消防大学校救急科（1名）へ職員を派遣した。【益田広域消防】 ・救急医療週間にあわせ救急車の適正利用について広報を実施した。【益田広域消防】 ・救急隊員がBLSコースやJPTECコース等の各講習会を受講した。【益田広域消防】 ・救急救命士就業前病院実習や薬剤投与認定等の病院実習を実施した。【益田広域消防】
⑨災害医療	・日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）リーダー育成研修に益田圏域で3名参加、リーダー登録【栄養士会】 ・災害をテーマに、DMAT医師（益田日赤 佐藤医師）を講師に多職種研修会を開催。52名の参加。【看護協会】

⑩感染症に対する医療	・医療法人橘井堂の木谷統括管理監を講師にお招きし、津和野町の医療・介護構想についての研修会を実施。【津和野町の医療を守り支援する会】
⑪地域医療	・益田赤十字病院の後方支援病院として機能分担。【津和野町】 ・医師の安定確保及び定着に向け、島根県、島根大学、しまね地域医療支援センターとの意見交換等実施。【津和野町】 ・医療従事者の確保に向け、看護学校や医療技術職及び介護職員等養成施設へ出向き、PR活動を実施。【津和野町】 ・町内の2つの無医地区に対し、それぞれ月2回の巡回診療を実施。【津和野町】
⑬小児救急を含む小児医療	・津和野共存病院において、総合医による診療を実施。非常勤の小児科医師による診療を週1回実施。【津和野町】 ・鹿足郡ではH31年3月に在宅当番医制を廃止し、津和野共存病院が対応している。【津和野町】 ・つわの健康ダイヤル24事業の実施。【津和野町】
⑭在宅医療	・在宅医療・介護連携推進事業において、切れ目ない在宅医療・介護サービスが一体的に提供されるよう、地域の医療・介護関係者の協力を得て、体制整備を図る等の施策を実施。【津和野町】
⑮緩和ケア及び人生の最終段階における医療	・住民向けにオレンジカフェ等を利用し、ACP座談会の開催や終活に関する講演会、終活ノートの書き方講座を実施。【津和野町】
⑯医薬品等の安全確保	・医薬品不足問題（毎年薬価が下がり、製薬をやめる会社が増加）【薬剤師会益田支部】
⑳健康長寿しまねの推進	・圏域各地区健康づくり活動においてライフステージに沿った食育活動【栄養士会】 ・高齢者の集いの場として地域お達者サロン（町委託事業）や地域住民のお茶のみサロンを助成事業として実施。【津和野社会福祉協議会】 ・地域のつながりづくりとしてお出かけツアーや買物バスを助成事業として実施。【津和野社会福祉協議会】
㉑高齢者の疾病予防・介護予防対策	・元気アップ教室、健康づくり教室の年間を通じた開催、認知症講演会の実施。【津和野町】 ・津和野町コミュニティドクター等による、フレイル予防、認知症に関する講話。【津和野町】 ・益田市後期高齢者歯科口腔健診後の在宅訪問（低栄養予防）【栄養士会】 ・まちの保健室を実施し、健康相談・ACP啓発（益田市、吉賀町のイベント参加）【看護協会】
㉒保健医療従事者の確保	・医学生奨学金、看護学生及び医療技術者等修学資金の貸与。【津和野町】 ・医療法人と連携して、病院や看護学校、医療技術職及び介護職員養成施設を訪問し、町立病院等の施設をPRしている。【津和野町】 ・進学ガイダンスを実施し、管内高校へ出張講座【看護協会】

各団体の取組報告【団体：益田鹿足歯科医師会】

R6. 12. 末現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
①医療連携体制	顔の見える医療連携を目指し医歯薬・病診連携に努めている。ICT活用については、まめネットの加入促進、MCS（Medical Care Station）も活用している。	継続。
②医療に関する情報提供の推進	G-MIS（医療機関情報支援システム）への情報更新。	継続。
③がん	がん治療の支持療法としての口腔機能管理の普及啓発と推進。	継続。
④脳卒中	脳卒中後の嚥下機能低下による誤嚥性肺炎予防に向けた口腔機能管理・口腔衛生管理・口腔ケアの普及啓発活動。	継続。
⑤心筋梗塞等の心血管疾患	心血管疾患のリスクを高めるといわれている歯周病について、予防と重症化予防のための歯周疾患検診の受診率向上を推進。	継続。全てのライフステージで定期的な歯科受診を推進する。
⑥糖尿病	糖尿病の合併症（併発症）のひとつである歯周病の継続的管理の普及啓発。糖尿病予備軍への対応として、特定健診受診者へのチラシの印刷・配布を行っている。	継続。特に、働き盛り世代への歯と口腔の重要性に関する情報発信を強化する。特定健診の咀嚼項目指導該当者に対する事後措置の充実。
⑦精神疾患	認知症になってからでは歯科治療が困難になることが少なくないことから認知症になる前から歯科との関係を絶えさない継続的口腔管理の重要性を普及啓発。チラシの活用。	継続。
⑨災害医療	災害時における歯科支援チームJDAT（Japan Dental Alliance Team）の編成について日本歯科医師会から島根県歯科医師会を通じて地区歯科医師会に依頼があり1チームを編成している。	実質的な活動内容を検討したい。
⑩地域医療	スタンダードプリコーション（標準的感染予防対策）に加えて新興感染症対策を強化し歯科診療体制の継続に努めている。へき地歯科医療の充実に向けた提言。	歯科診療所内の新興感染症への対策強化に努めたい。へき地地域等での歯科医療体制の充実。
⑬在宅医療	在宅歯科診療の普及啓発のために「歯の往診ほっとライン」0852-27-8020（島根県歯科医師会）の周知に努めている。チラシの活用。在宅歯科医療を推進するための益田圏域地域包括口腔ケア会議を開催（R. 6年度は紙面開催）。	継続。

⑭緩和ケア及び人生の最終段階における医療	「もしもの時のために」（ACP歯科編）のチラシを作成した（令和4年度）。チラシ作成時には益田市医師会・鹿足郡医師会・島根県益田保健所のご協力をいただいた。	ACP歯科編チラシの印刷と配布による普及啓発の継続。緩和ケア研修会への参加者を増やす。
⑮医薬分業	電子処方箋開始に向けて準備を進めている。	HPKIカード発行申請者を増やす。
⑲健康長寿しまねの推進	8020運動とオーラルフレイル予防を2本の柱として歯科口腔保健の推進から健康寿命延伸に注力している。後期高齢者歯科口腔健診によるオーラルフレイル予防・低栄養改善を推進。後期高齢者健診・後期高齢者歯科口腔健診データにの解析と得られた知見のフィードバック。	益田市では小中学校の子どもの定期歯科受診率100%、成人期以降で65%を目標に普及啓発を継続。後期高齢者歯科口腔健診の受診率を上げる。データを活用した調査・研究分野の推進とフィードバック。
⑳健やか親子しまねの推進	児童虐待の早期発見と支援につながるよう、また歯科医療放棄が起こらないよう定期歯科受診勧奨のチラシ「子どものころからお口のチェック！」を作成している。チラシの活用。	益田圏域の市町の幼児健診保護者・小中学校の保護者に向けて印刷・配布。児童虐待の防止、早期発見と早期支援にさらに尽力したい。学齢期でのフッ化物洗口実施率の向上やフッ化物剥ぐ歯磨き剤使用率を高める。
㉑高齢者の疾病予防・介護予防対策	オーラルフレイルの早期発見に向けて啓発冊子「オーラルフレイルを予防しよう！」を作成（令和3年度）し圏域市町に配布し活用していただいている。The Lancet Healthy Longevity に島根県歯科医師会・島根大学・国立保健医療科学院共同研究の成果（口腔の不健康状態が要介護2以上・死亡のリスクを高める）が掲載された。この結果を地域に還元し疾病予防と介護予防に役立てたい。	市町の集いの場でオーラルフレイルの予防のための普及啓発の拡充。栄養改善とオーラルフレイル予防のための講師（栄養士・歯科衛生士）派遣事業を継続。高齢期になるまえから子ども～壮年期でのむし歯予防・歯周病予防の対策に注力する。
㉔保健医療従事者の確保及び医療・保健・福祉情報システムの構築	歯科衛生士不足への対応策を模索している。医療・保健・福祉情報システムの構築については、まめネットを利用した後期高齢者歯科口腔健診のデジタル化が開始している。これにより、健診実施時に広域連合とまめネットに加入している自治体が即座に結果を把握することが可能になった。しかしながら市町でまめネットを利用していない場合では健診から事後措置の介入までほぼ1年掛かることもある。解決すべき喫緊の課題として認識している。	まめネット未加入の自治体に向けた加入促進。

各団体の取組報告【団体名：益田赤十字病院】

R7.2月末現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
①医療連携体制	紹介率94.9%、逆紹介率97.1% 医師会病院回復期病棟に転院する患者に対し退院時栄養情報提供書を作成し管理栄養士間で情報共有	
②医療に関する情報提供の推進	ホームページ上への病院指標の公開 臨床研修会動画の公開	
③がん	がん診療連携推進病院、がん診療連携拠点病院に準じる病院として手術、薬物治療を行う。	
④脳卒中	脳神経内科学会、一次脳卒中センター指定 脳卒中地域連携パスを浜田医療センター、医師会病院との間で実施中	
⑤心筋梗塞等の心血管疾患	カテーテル治療、検査大動脈バルーンパンピングを実施。 心不全外来で心不全の予防、悪化の軽減に務める。	
⑥糖尿病	糖尿病の治療、透析、眼科等合併症の治療を実施。	
⑦精神疾患	松ヶ丘病院と連携しながら診療	
⑧救急医療	24時間365日救急外来を継続	
⑨災害医療	院内BCP・災害対応訓練を実施した。	災害拠点病院として訓練を年1回実施する。
⑩感染症に対する医療	・COVID19他感染症の入院・外来対応 ・大田市発生の鳥インフルエンザについて受け入れ準備体制（動線、検査方法、感染対策など確認） ・益田圏域の病院・医院・益田保健所・消防参加の新興感染症対応合同訓練（N95マスクの着用フィットテスト） ・感染対策に関する相談窓口設置と対応（対象：益田圏域病院 相談件数：15件うち訪問指導5件） ・感染管理認定看護師による感染対策研修（3件：高齢者施設 益田圏域の病院等） （HP公開研修：場面に応じた防護具の正しい選択と使用方法） ・抗菌薬適正使用についての相談窓口の設置	

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
⑪地域医療	地域医療支援病院として、圏域の医療機関と連携しながら診療にあたっている。年4回地域医療支援病院運営委員会を開催し、地域医療について意見交換を行っている。	
⑫周産期医療	産婦人科医4名、小児科医3名、常勤麻酔科医1名体制で、周産期医療に対応	
⑬小児救急を含む小児医療	小児科医3名体制を維持	
⑮緩和ケア及び人生の最終段階における医療	緩和ケア外来、緩和ケアチームが活動中	
⑰臓器等移植	しまねまごころバンク、各大学病院と連携し、患者、家族の意思に沿う対応ができるよう支援	
⑱難病等保健・医療・福祉対策	各機関と連携し難病患者等への相談支援	
㉑健やか親子しまねの推進	女性に対する暴力対策について関係機関と協議し、救急対応の体制整備を行っている。 児童虐待に関してをCPT（Child Protection team）を組織し対応	
㉒高齢者の疾病予防・介護予防対策	市民公開講座を実施（小児科科領域）	
㉓食品の安全確保対策	病院食提供にあたり、食の安全を守る対策として、HACCPに基づく衛生管理と調理作業手順書に沿った作業の実施と確認、菌検査による調理システム・手順の評価と安全の担保をおこなった。	

各団体の取組報告【団体名：松ヶ丘病院】

R7. 2. 末現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
①医療連携体制	・関係医療機関との連携を図り、各病院への往診等を進めた。	・4月より、島根大学精神科から、1名の後期研修医を派遣していただき、常勤医の業務の負担軽減とともに、研修医の教育体制を強化する。
⑦精神疾患	・精神科にも対応した地域包括ケアシステムを念頭に、長期入院患者の退院促進、地域移行を積極的に行い、退院後の訪問診療、訪問看護。就労支援を充実させ、入院中から退院に向け、各機関と連携した支援を行った。 ・依存症専門医が着任し、ギャンブル依存症外来を月二回開設しており、圏域外からの受診も受け入れ、体制を強化した。 ・児童思春期外来を拡充させ、地域ニーズに対応した。また、学校等と連携強化を図ると共に、子供支援者ネットワーク「マステル」を立ち上げ、定期的に研修会を開催している。 ・高次脳機能障害西部地域拠点として、医療機関と連携し、支援を行った。また、市民への啓発活動として、研修会（茂木健一郎）を実施した。 ・就労支援を強化し、就労継続支援A型、就労継続支援B型との連携を促進させ、入院患者の退院促進を進めた。 ・地域住民対象の「出前講座」を多数開催し、病気への理解を促すとともに、差別や偏見をなくす取り組みを進め、又、早期支援の必要性も伝えた。 ・認知症疾患医療センターに新たに専任看護師を配置し、充実を図り、各医療機関との連携、早期介入と治療に取り組んだ。 ・認知症に関するイベント（アルツハイマーデー等）を通じて、啓発活動に取り組んだ。 ・ひきこもり支援センター西部地域拠点「いっぽ」を中心に、本人、家族からの相談を受け、関係機関との連携を強化するとともに、新たな取り組みとして、「居場所づくり」を目的に、益田市と一緒に取り組んだ。	・精神科にも対応した地域包括ケアシステムの実現に向け、退院促進、地域移行に積極的に取り組み、関係機関との連携を強化する。 ・精神疾患への差別や偏見のない共生社会を実現するために、「出前講座」等での啓蒙や、「さんさん牧場」の施設を最大限にアピールし、活用していく。 ・依存症外来、児童思春期外来、小児発達外来の強化を図り、啓発活動にも取り組む。 ・認知症疾患医療センターの機能を強化し、質の高い認知症治療も実現するとともに、市民への啓発活動を推進する。 ・地域医療構想の中に、精神医療が位置づけられ、病床機能報告を行うことになるため、自院の病床機能を分析し、圏域での必要性を訴えていく。 ・DPATの先遣隊として、派遣要請に備え、準備を行う。
⑨災害医療	・DPATの先遣隊として、派遣要請に備え、準備を行った。	
⑪地域医療	・研修医、医学生を積極的に受け入れ、益田圏域の医療に少しでも興味を持っていただけるような取り組みを実施しました。	
⑫周産期医療	・益田赤十字病院と、「ハイリスク妊産婦連携指導カンファレンス」を2ヵ月毎に開催し、精神疾患を有する妊婦が安心して出産でき、出産後フォローもできるように取り組んだ。実績6名	

各団体の取組報告【団体名：益鹿食生活改善推進連絡会】

R7.2. 未現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
③がん	・様々な場面での生活習慣予防、重症化予防を行った。 ・1日の野菜摂取量を測定できるベジチェックの実施や野菜350g/日摂取推奨量の展示 ・減塩のチラシ配布、食品中の塩分摂取量の展示 ・近所の方の自宅へ訪問し、家庭の味噌汁の塩分測定実施	・行政、関係機関・団体と連携し継続実施
④脳卒中		
⑤心筋梗塞等の心血管疾患		
⑥糖尿病		
⑩健康長寿しまねの推進	・市内スーパーと連携し、1日の野菜摂取量を測定できるベジチェックの実施、簡単にできる野菜レシピや減塩のチラシなどを配布し、働き盛りが健康に関心を持つよう普及啓発を行った。 ・各地区健康づくりの会と連携し、朝ごはんの大切さを講義、調理実習をおし子ども達へ伝え食育の推進を行った。 ・食改員の育成教室を市と連携し実施し、食育を推進する人材育成に努めた。	・行政、関係機関・団体と連携し継続実施（食改育成は実施しない）
⑫高齢者の疾病予防・介護予防対策	・公民館やサロンと連携し、高齢者が多い集まりを活用し、簡単に栄養のあるおやつやレシピの提供を行い、フレイルやロコモティブシンドロームの予防を行った。 ・簡単に栄養のあるおやつ作り教室を開催し学習した。	・行政、関係機関・団体と連携し継続実施
⑬食品の安全確保対策	・食中毒予防等衛生面について学習会を開催した。	・専門職の指導のもと、行政、関係機関・団体と連携し継続実施

各団体の取組報告【団体名：益田市】

R7.2現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
①医療連携体制	・医療連携実務者会議等へ出席し医療関係者と情報交換を行った。	・引き続き医療関係者との情報交換を行う。
②医療に関する情報提供の推進	・益田市広報やホームページ及び告知放送による情報提供を行った。 ・益田の医療を守る市民の会との連携による市民啓発を行った。	・引き続き取り組みを実施する。
③がん	・がんセット検診や休日に検診日を設け受診しやすい体制を整えた。 ・特定健康診査とセットでがん検診を実施した。 ・地区健康づくりの会活動や公民館事業に併せて、チラシ配布などがん検診受診勧奨を行った。 ・50歳未受診者へ大腸がん検診受診勧奨を行った。 ・25～29歳前年度と当年度未受診者へ子宮頸がん検診受診勧奨を行った。	・効果的な受診勧奨を検討し、実施する。
④脳卒中	・健診結果と脳ドック結果から脳卒中発症リスク保有者を勧奨対象として脳卒中予防講座を開催した。また、勧奨案内に脳卒中予防の情報提供を行った。 ・脳卒中発症者への訪問指導または電話相談を実施した。 ・脳卒中予防の共通教材を作成し、各地区で健康教室を実施した。 ・益田市スマート・ヘルスケア推進事業（IoTを活用した血圧管理・家庭血圧測定の普及啓発）について事業内容を周知し、新規参加者・事業者の募集を行った。また、参加者の集いを開催した。 ・研究結果を活用した冬場の血圧管理に関するパンフレットを作成し、健康教室等で啓発を行った。	・高血圧・脳卒中予防講座を評価し改善を図り、継続する。 ・地区等において最新の情報提供を継続して行う。 ・益田市スマート・ヘルスケア推進事業の周知啓発を継続し、新規参加者を増やす。
⑤心筋梗塞等の心血管疾患	・動脈硬化の早期発見のため、地区組織を活用した特定健康診査の受診率向上に取り組んだ。 ・発症リスクである、メタボリックシンドロームや高血圧の予防について健康教室を実施した。特に冬場の血圧管理の啓発を行った。 ・家庭血圧測定の普及啓発を行った。	・心血管疾患予防について、効果的な周知啓発に取り組んでいく。
⑥糖尿病	・特定健診、人間ドックの結果から糖尿病発症リスク保有者を勧奨対象として糖尿病予防講座を開催した。また、勧奨案内に糖尿病予防の情報提供を行った。 ・糖尿病腎症重症化対策として、健診結果から医療機関受診必要者へ電話連絡・訪問による保健指導を行なった。 ・地区等の健康教室時に活用できる糖尿病予防の共通教材を作成し、住民へ普及啓発を行った。	・糖尿病予防講座を評価し改善を図り、継続する。 ・糖尿病重症化予防の取組を継続する。 ・地区等において最新の情報提供を継続して行う。 ・保健所や糖尿病専門医等との連携、糖尿病対策の体制づくりの環境整備を行う。

⑦精神疾患	・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築については、益田市障がい者自立支援協議会に位置付けて実施。検討の場を設けた。 ・関係機関や相談支援専門員と連携を図りながら、相談対応等を実施した。 ・ひきこもり支援推進事業において、国のひきこもり支援ステーション事業を活用し、相談支援・居場所づくり・ネットワークづくりを委託事業にて実施した。	・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築については、引き続き益田市障がい者自立支援協議会にて実施していく。 ・重層的支援体制整備事業がスタートするので、担当課とさらなる連携を図っていく。
⑧救急医療	・休日応急診療事業及びますだ健康ダイヤル24事業により救急外来の負担軽減を図った。 ・病院群輪番制病院運営事業の対象病院（益田日赤、医師会病院）へ支援を行った。 ・「知って安心・受診の心得」を配付し、上手な医療機関のかかり方の周知啓発を行った。 ・「救急の日」に合わせリーフレットを配布し、救急車の適正利用などを呼びかけた。	・休日・夜間の救急外来の負担を軽減するための取組を継続して行う。 ・関係機関と協力して上手な医療機関のかかり方、救急車の適正利用などについて周知啓発を行う。
⑨災害医療	・災害対策本部の設置時におけるリエゾンの要請依頼について、益田日赤に対し確認を行った。	引き続き、平時からの備えの実施や、連携体制の構築に務める。
⑩感染症に対する医療	・指定医療機関と連携し、各種予防接種を実施した。 ・接種対象者への個別通知や健康ガイドブックにて受診勧奨を行った。 ・様々な感染症について、お知らせ放送やホームページ、市公式LAIN等で周知啓発を行った。	・保健所や医療機関と情報共有し、市民に向けて、地域の現状に応じた情報をタイムリーに発信する。 ・带状疱疹ワクチン接種の定期化を令和7年度より実施予定。
⑪地域医療	・公的病院（益田日赤、医師会病院）へ特別交付税を利用した財政支援を行った。 ・条件不利地域への訪問診療及び訪問看護を行う対象機関へ補助を行った。 ・「益田の医療を守る市民の会」の運営等を支援し、住民啓発の取り組みを行った。 ・オンライン診療の先進地へ視察を行った。 ・益田市出身医師との意見交換会を行った。	・訪問診療支援事業等の対象機関へ更なる事業の周知を行う。 ・医療関係者以外にも幅広く連携し、医療提供体制の構築につなげる。
⑫周産期医療	・周産期医療を担う病院や医師に対し分娩件数に応じて補助を行った。	引き続き取り組みを実施する。
⑬小児救急を含む小児医療	・小児医療病床を持つ病院へ特別交付税を利用した財政支援を行った。 ・休日応急診療事業で休日の患者の受け入れを行った。 ・ますだ健康ダイヤル24事業の実施及び住民への周知を行った。	・休日応急診療事業で休日の患者の受け入れ。 ・ますだ健康ダイヤル24事業の実施及び住民への周知。
⑭在宅医療	・在宅医療介護連携推進協議会において、再入院・再発を防ぐための情報共有の仕組みづくり、疾患管理の視点を含んだ「人生会議」の取組みについて検討を行った。 ・予期しない再入院・再発を防ぐための取組みとして、多職種研修会を開催し、医療・保健・介護従事者間の目線合わせを行った（骨折、心不全） ・益田地域ACPを真剣に考える会に参加し、住民向けACPツールについて検討し、圏域共通「思いをつなげるシート」を作成・啓発を行った。	・「骨折」「心不全」について具体的な連携の在り方について今年度の多職種研修会の結果を踏まえて検討、実施する。 ・圏域共通のACPツール「思いをつなげるシート」の活用を通じてACP（人生会議）の地域における普及啓発を行う。

⑮緩和ケア及び人生の最終段階における医療	・益田地域ACPを真剣に考える会に参加（同上） ・ますだ圏域人生会議キャンペーンチラシを家族が集う年末年始に向け配布し、普及啓発を行った。	・身寄りのない人への支援としてのACPの活用 ・11月の啓発月間だけでなく、お盆・年末年始の家族が集うタイミングを捉えた普及啓発を行う。（圏域共通）
⑳健康長寿しまねの推進	・第二次益田市健康増進計画（健康ますだ市21計画）の推進に向け、健康ますだ市21推進協議会員や公民館職員へ健康長寿しまねの取組の情報提供を行った。 ・島根県知事賞を種地区保健班、健康長寿しまね推進会議会長賞を美濃地区健康を守る会が受賞し、表彰を機に地域の健康づくりの活性化が図られた。	・令和7年度の第2次健康増進計画中間評価について、健康長寿しまねの取組と連携し実施する。 ・健康長寿しまねの取組を情報共有し、健康ますだ市21活動へ活かす。
㉑健やか親子しまねの推進	・こども家庭センターにおいて、関係機関と連携しながら、妊娠前・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を目指し、母子保健・子育て支援事業に取り組んだ。 ・妊娠8カ月頃の全妊婦を対象にアンケート送付を行い、妊娠期の支援体制の強化に努めた。	・こども家庭センターにおいて、母子保健と児童福祉の相談支援を一体的に行うことで、家庭の状況に応じた継続的なマネジメントを実施する。家庭支援事業の充実・強化を図るとともに、関係機関と連携して必要な支援が適切に提供できるように調整していく。
㉒高齢者の疾病予防・介護予防対策	・昨年度と同様に、いきいき百歳体操等の場で、体力測定と合わせて、タブレットを活用したフレイル度チェックを実施。判定結果がフレイル（疑）の高齢者に対しては、後日保健師が電話連絡にて状況を確認し、フレイル予防について伝えた。 ・いきいき百歳体操や美都圏域のフレイル予防教室等の場に、医療専門職を派遣。いきいき百歳体操の場では、理学療法士や作業療法士が百歳体操の正しい体操の仕方の指導や、転倒・骨折予防の講話を行なった。美都圏域では、作業療法士や栄養士が、主に認知症予防に関する講話を行なった。 ・昨年度と同様に、リハビリ専門職、栄養士、歯科衛生士、薬剤師、保健師といった多職種が参加する地域ケア個別会議を開催した。	・これまでに介入できなかった団体に対して、R6年度の取り組みを継続して実施予定。
㉓食品の安全確保対策	・食品衛生月間に食中毒予防について、広報に記事を掲載し啓発を行った。	・様々な手法により食中毒防止についての啓発を継続する。
㉔保健医療従事者の確保	・島根県及び大学（島根大学・鳥取大学・山口大学）へ医師派遣の要望を行った。 ・島根大学、しまね地域医療支援センター及び医療機関との連携を図った。 ・島根大学へ総合診療リーダー養成事業の支援を行った。 ・赴任医師歓迎事業、病院勤務医師支援事業を実施した。 ・島根大学医学部と石見高等看護学院の地域推薦入試への市長推薦及び対象医学生（看護学生）と意見交換会を行った。 ・医学生へ奨学金の貸与及び貸与医師との面談を行った。 ・地域医療教育推進事業、石見高等看護学院との連携など、学童期から地域医療に関心を持ってもらうための取組を行った。 ・各高校へ訪問し、情報交換を行った。	・引き続き島根県、島根大学、しまね地域医療支援センター及び医療機関と連携を図る。 ・将来医療従事者を目指す子どもを増やすための取組を継続する。

各団体の取組報告【団体名：吉賀町】

R7.2. 未現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
①医療連携体制	・公設民営として令和6年3月1日より「よしか病院」及び「よしか介護医療院」を開設、指定管理者として「医療法人カタクリ会」を選定し運営	・第4次地域医療計画に基づき、引き続き医療法人カタクリ会に運営を担っていただき、圏域の医療機関との連携体制を構築
②医療に関する情報提供の推進	・令和6年3月1日の「よしか病院」及び「よしか介護医療院」の開設以降、町の広報誌及びホームページをはじめ、イベント等の開催、SNSの活用等により情報提供	・多様な年齢層に配慮した様々な手法を取り入れた情報発信体制の構築
③がん	・大腸がん検診未受診者対策事業（検診料金無料化、受診勧奨通知等） ・若い世代への子宮頸がん検診受診啓発（保育所年長児保護者へのグッズ配布等） ・「がんを知る展示」（9月、町立図書館） ・「大腸がんクイズラリー」（11月、きん祭みん祭農業文化祭にて実施） ・がん教育（小学校1校で実施） ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催（9月・3月）	・大腸がんを中心としたがん検診受診率、精密検査受診率向上に向けた取り組みの強化 ・がんや検診について、わかりやすい啓発の工夫と実施 ・受診しやすい検診体制整備に務める（R7年度、肺がん検診の一部会場においてリフト車配備予定） ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催
④脳卒中	・食生活改善推進員と連携し、働く人のための健康づくり応援事業を実施 ・脳卒中既往者の会（BGHクラブ）開催 ・食改員によるみそ汁の塩分測定の実施 ・集まりの場でみそ玉づくりの実施 ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催（9月・3月）	・発症予防に向けた取り組み ・高血圧管理の徹底 ・健診受診勧奨 ・精密検査の受診率向上に向けた取り組み ・発症連絡票による訪問 ・リハ職との連携 ・食改員と連携した活動の継続 ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催
⑤心筋梗塞等の心血管疾患	・食生活改善推進員と連携し、働く人のための健康づくり応援事業を実施 ・食改員によるみそ汁の塩分測定の実施 ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催（9月・3月）	・食改員と連携した活動の継続 ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催
⑥糖尿病	・生活習慣病予防教室（11月、2回） ・特定健診で糖尿病精密検査になった方へ受診勧奨（通知、電話） ・医療機関より紹介を受けた方の個別栄養指導 ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催（9月・3月）	・精密検査の受診率向上にむけた取り組み ・生活習慣の改善に向けた取り組み ・吉賀町健康づくり推進協議会（生活部会）の開催

各団体の取組報告【団体名：吉賀町】

R7.2. 未現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
⑦精神疾患	・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築 ・ひきこもり支援としてSST講座(月1回)の継続 ・相談事業やNW事業の活用や関係機関と連携して在宅及び入院の個別ケースの検討、支援 ・松ヶ丘病院通院バス「ひかり号」運行 ・ひきこもり事例検討会の開催(1回/2か月) ・家族会の支援、講座の開催 ・吉賀町健康づくり推進協議会(こころの部会)の開催(8月・3月予定) ・「よしか病院」において、R6年4月より精神科・心療内科を月2回隔週により診療を開始	・心の講座、仲間の会の集い ・長期入院者の地域移行推進(松ヶ丘病院以外の所もすすめていく) ・こころの健康づくり(一次予防) ・吉賀町健康づくり推進協議会(こころの部会)の開催(年2回予定) ・「よしか病院」において、精神科・心療内科を継続
⑧救急医療	・公設民営として令和6年3月1日に「よしか病院」を開設し初期救急に対応、重症者や手術が必要な場合は二次救急医療機関と連携 ・夜間救急について、「よしか病院」への受入れを実施していないため、益田広域消防本部及び二次救急医療機関と連携 ・救急車の適切な利用の啓発や、「よしか健康ダイヤル24」の開設、活用の普及啓発	・第4次地域医療計画に基づき、引き続き二次救急医療機関と連携強化 ・コンビニ受診や時間外受診を控えることや、救急車の適切な利用の啓発などの推進 ・「よしか健康ダイヤル24」の活用の普及啓発
⑨災害医療	・「吉賀町地域防災計画」に基づいた活動の推進 ・「益田地域災害医療対策会議」への参加	・「吉賀町地域防災計画」に基づいた活動の推進 ・「益田地域災害医療対策会議」への参加
⑩感染症に対する医療	・乳幼児、成人の定期接種は例年通り実施 ・コロナ対応、コロナワクチンの実施 ・带状疱疹ワクチン接種費用助成事業を実施	・乳幼児、成人の定期接種の例年通り実施
⑪地域医療	・公設民営として令和6年3月1日に「よしか病院」及び「よしか介護医療院」を開設し、地域における基幹的な医療機関として位置付け ・「よしか病院」の医療従事者として志望する学生への奨学金、修学金資金制度の創設	・第4次地域医療計画に基づき、引き続き「よしか病院」を中心として圏域の医療機関と連携し医療提供体制を強化 ・「よしか病院」をはじめ、町内の医療機関へのアクセス向上、通院手段の確保 ・将来的な人材確保のための奨学金、修学金資金制度の周知 ・地域医療拠点病院の指定に向けた取組み
⑫周産期医療	・妊産婦、乳児の健診助成。通院費助成 ・産前産後サポートや産後ケア実施 ・外国人対応(定期訪問や母国語の資料活用) ・益田赤十字病院へ分娩補助	・妊産婦、乳児健診の実施。受診しやすい環境づくり ・外国人妊産婦の支援
⑬小児救急を含む小児医療	・「よしか病院」において、令和6年11月より小児科の毎週診療開始 ・「よしか健康ダイヤル24」の開設、活用の普及啓発	・小児科診療について、地域住民への周知及び毎週診療日の確保 ・「よしか健康ダイヤル24」の活用の普及啓発
⑭在宅医療	・訪問診療、訪問看護等の実施及び町内医療機関との連携 ・「在宅医療介護連携推進会議(1K 会議)」の開催	・訪問診療、訪問看護等の実施及び町内医療機関との連携 ・「在宅医療介護連携推進会議(1K 会議)」の開催
⑮緩和ケア及び人生の最終段階における医療	・圏域関係機関による地域住民及び関係機関を対象としたACPの推進・啓発	・圏域関係機関による地域住民及び関係機関を対象としたACPの推進・啓発
⑯難病等保健・医療・福祉対策	・災害時の対応について個別計画策定	・個別避難支援計画の更新

各団体の取組報告【団体名：吉賀町】

R7.2. 未現在

項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
㊹健康長寿しまねの推進	・健康づくり推進協議会、下部組織の4部会（食と歯部会・こころの部会・生活部会・運動部会）を各2回開催。計画に基づいて各部会で取り組みを実施 ・推進協議会も2回開催 ・健康高齢者表彰式を開催し、22名が受賞	健康づくり推進協議会、下部組織の4部会（食と歯部会・こころの部会・生活部会・運動部会）を各2回開催 ・推進協議会も2回開催 ・健康高齢者表彰式の実施
㊺健やか親子しまねの推進	・妊娠期から切れ目ない支援の実現に向けて、助産院や医療機関とも連携を図りながら、産前産後のサポートを実施 ・母子モを利用した情報発信	・産前産後のサポートの継続実施 ・母子モの利用促進
㊻高齢者の疾病予防・介護予防対策	・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を継続実施	・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の継続実施 ・R7年度は「骨折予防」に焦点をおいた現状把握に重点的に取り組む
㊼健康危機管理体制の構築	・要支援者の個別計画策定	・要支援者名簿の更新 ・社協、よしかの里と災害時の連絡会議開催
㊽保健医療従事者の確保	・町内の医療機関・介護事業所における保健医療従事者確保の取り組み支援とした医療介護従事者確保支援補助金の交付 ・「よしか病院」の医療従事者として志望する学生への奨学金、修学金資金制度の創設	・町内の医療機関・介護事業所における保健医療従事者確保の取り組み支援とした医療介護従事者確保支援補助金の継続 ・「よしか病院」の医療従事者として志望する学生への奨学金、修学金資金制度の周知

各団体の取組報告【団体名：公益社団法人益田市医師会】

R7. 1. 末現在

団体名	項目	令和6年度の取組状況	今後の計画等
	①医療連携体制	○医師会員と連携し、医師会資源を有効に活用した医療・介護の支援体制の構築に努めた。 ○行政等との連携を密にし、取り巻く状況やニーズの変化に適切に対応を行う。 ○地域内完結の向上を目指しかかりつけ医と連携強化を図った。（在宅医療後方支援病院の円滑運用） ○感染症拡大時の圏域での体制づくりを医師会員、益田赤十字病院・松ヶ丘病院等との連携を継続する	令和6年度と同様
	②医療に関する情報提供の推進	○ホームページを活用し正確で有益な情報の掲載を行った。 ○Instagramを開設し情報提供を行い幅広い情報提供の推進を行った。 ○会員医療機関向けのグループウェアの活用を促進し、行政関係の通達文書等の閲覧ができるようシステムを構築し迅速な情報提供、情報共有を行った。	令和6年度と同様
	③がん		
	④脳卒中		
	⑤心筋梗塞等の心血管疾患		
	⑥糖尿病	○益田地域糖尿病支援ネットワーク会議において研修会等の案内を行った	令和6年度と同様
	⑦精神疾患	○益田圏域認知症ネットワーク会議や益田圏域認知症サポート医連絡会議への参加	令和6年度と同様
	⑧救急医療	○益田市立休日応急診療所の協力をを行った。	引き続き協力する

⑨災害医療	○BCP（たたき台）の策定 ○石見空港航空機事故消火救難総合訓練等を通じた外部訓練への参加（令和6年度島根県総合防災訓練の避難所事前準備に参加したが選挙会場となり中止） - 益田市医師会員を4班に編成し災害時の体制を整えている。	○BCPの策定 ○災害医療について現状の体制を維持する
⑩感染症保健・医療対策	○診療・検査医療機関への登録延長（21医療機関） ○個別接種医療機関への登録（28医療機関） ○集団接種への参加（12医療機関 14名） ○マスコミやHPへの感染防止のための啓発活動を行った。 ○感染症発症報告を行政、各医療機関へ情報提供を行った。 ○感染対策に係る合同カンファレンスの開催（年4回のうち1回が訓練）	引き続き協力する。
⑪地域医療	○医師不足解消のためのへき地医療研修プロジェクト「親父の背中プログラム」の実施 ○無医地区等への巡回診療所へ医師会員を派遣し無医地区の医療体制の維持	○「親父の背中プログラム」の参加医師の募集 ○無医地区の医療体制の維持
⑫周産期医療		
⑬小児救急を含む小児医療	○各種予防接種の実施 ○学校医、園医による健診の実施	令和6年度と同様
⑭在宅医療	○圏域課題解決推進事業、医療連携推進コーディネーター配置事業に取り組み圏域内の在宅医療介護連携を推進した。 ○医療連携推進コーディネーター配置事業による「在宅医療に関する医師の意見交換会」を開催し救急対応の面で、消防本部、急性期病院、医師会の各立場から活発な議論を行った。 ○益田市在宅医療介護連携支援センターを中心に各種研修会を実施し地域や関係機関との連携を図った。 ○益田市匹見道川・澄川国保診療所の指定管理者として、運営方法や体制整備を行う。	各種補助事業を活用とした連携強化の取り組み

⑮緩和ケア及び人生の最終段階における医療	○在宅医療介護連携推進事業により圏域の多職種研修会を開催し終末期についての講演や地域住民へのあんきな座談会を行いＡＣＰの普及啓発を行った。 ○令和7年度緩和ケア病棟開設に向けての専門的な研修を行った(16回)	在宅医療介護連携推進事業の継続
⑯医薬品等の安全確保		
⑰臓器等移植		
⑱難病等保健・医療・福祉対策		
⑲医療安全の推進		
⑳健康長寿しまねの推進	健康長寿しまね推進会議への参加	令和6年度と同様
㉑健やか親子しまねの推進		
㉒高齢者の疾病予防・介護予防対策	○益田市主催の講演会に医師を派遣 9回	令和5年度と同様
㉓食品の安全確保対策		
㉔健康危機管理体制の構築		
㉕保健医療従事者の確保及び医療・保健・福祉情報システムの構築		



益田地域保健医療対策会議
(第2回在宅医療介護連携推進事業研究会)

津和野町 地域医療の過去・現在・未来

石西厚生連破綻を乗り越えて

令和7年3月13日
津和野町・医療法人橘井堂

津和野町の過去・現在・未来

- **過去** 大正 8 (1919) 年 日本最初の産業組合医療の発祥
↓
 - * 平成20 (2008) 年 石西厚生連 経営破綻
 - 平成21 (2009) 年 医療法人橘井堂による医療継続
地域包括ケアシステムへの取り組み
 - ↓
 - * 平成30 (2018) 年 医療法人 橘井堂 存続の危機
 - ↓
- **現在** 平成31/令和元 (2019) 年 橘井堂の 再構築 の取り組み
令和 4 (2022) 年 橘井堂の 充実強化、地域包括ケアの推進
- **未来**

施設の建替・新築と町の支援

病院は老朽化の極み、地域医療を守るとの高邁な主張のもと

平成元(1989)年 日原共存病院 (79床、医5人) 新築移転

平成 3(1991)年 津和野共存病院 (110床、医11人) 新築移転

平成10(1998)年 介護老人保健施設せせらぎ (99床)

(日原共存病院に併設・新築)

*旧両町は厚生連の資金借入に損失補償設定・利子補給

**旧日原町は資金繰りが悪化したH10, 12年度運転資金貸付

経営の困難化と経営改善の取り組み

平成14(2002)年度 経営改善策の実施

機能分担（津和野：急性期型、日原：慢性期型）、人件費等の費用圧縮

*診療報酬マイナス改定、医師不足等で経営さらに悪化

町は経営努力に向けた抜本計画の策定を条件に

平成17(2005)年度に 貸付

平成18(2006)年度に 補助 を実施

外科医非常勤、内科医減、救急告示取下

平成19(2007)年 6月 分娩停止、小児科医・整形外科非常勤、

抜本的経営改善計画実行

津和野共存病院：病院機能集約 常勤5名（内3産1放1）、一般50床、療養49床

日原共存病院：無床診療所と介護老人保健施設に移行

公設民営化と石西厚生連の経営破綻

抜本的経営改善計画実行によっても資金繰りの目途が立たず
石西厚生連から「事業撤退」か「公設民営化」かの要望

町「医療の灯を消すことはできない」

平成20(2008)年 3月 運転資金貸付、施設の一括購入 (13億687万円)

公設民営化 (指定管理者は石西厚生連)

平成20(2008)年12月12日：石西厚生連破産 破産管財人のもと病院等事業継続

町が基金を拠出し設立された医療法人橘井堂が職員を再雇用し、

平成21(2009)年 4月～：医療法人橘井堂が指定管理者となり運営

公設民営：利用料金制から利用代行制へ

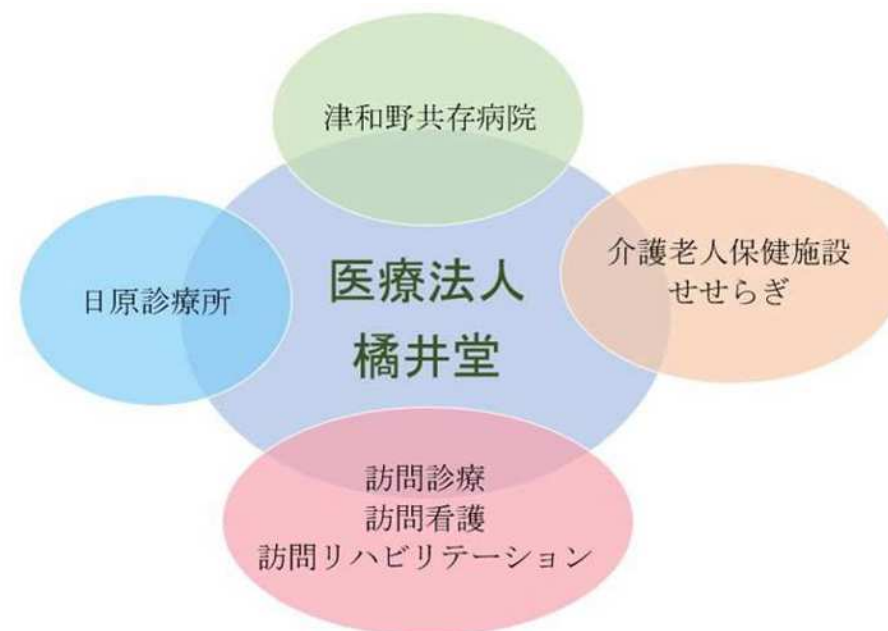
平成20(2008)年 石西厚生連：利用料金制

- ・町は指定管理者から施設・機器の使用料を受け取り、診療収入は指定管理者に入る。



平成21(2009)年～ 医療法人橘井堂：利用代行制

- ・診療報酬は全て町の収入となり、町は人件費、材料費、運営経費等定額を指定管理者に交付する。



- ・ 医療・介護・保健予防・在宅医療など、医療から介護まで切れ目のない地域包括ケアを実現する
- ・ 住み慣れた地域で安心して暮らしていくことを支える

いつでも そばに そっと いる kisseido

きっせいどう
橘井堂は、
ふるさと津和野の
医療と安心を守ります。

津和野共存病院
日原診療所
介護老人保健施設 せせらぎ



医療法人橘井堂 津和野共存病院

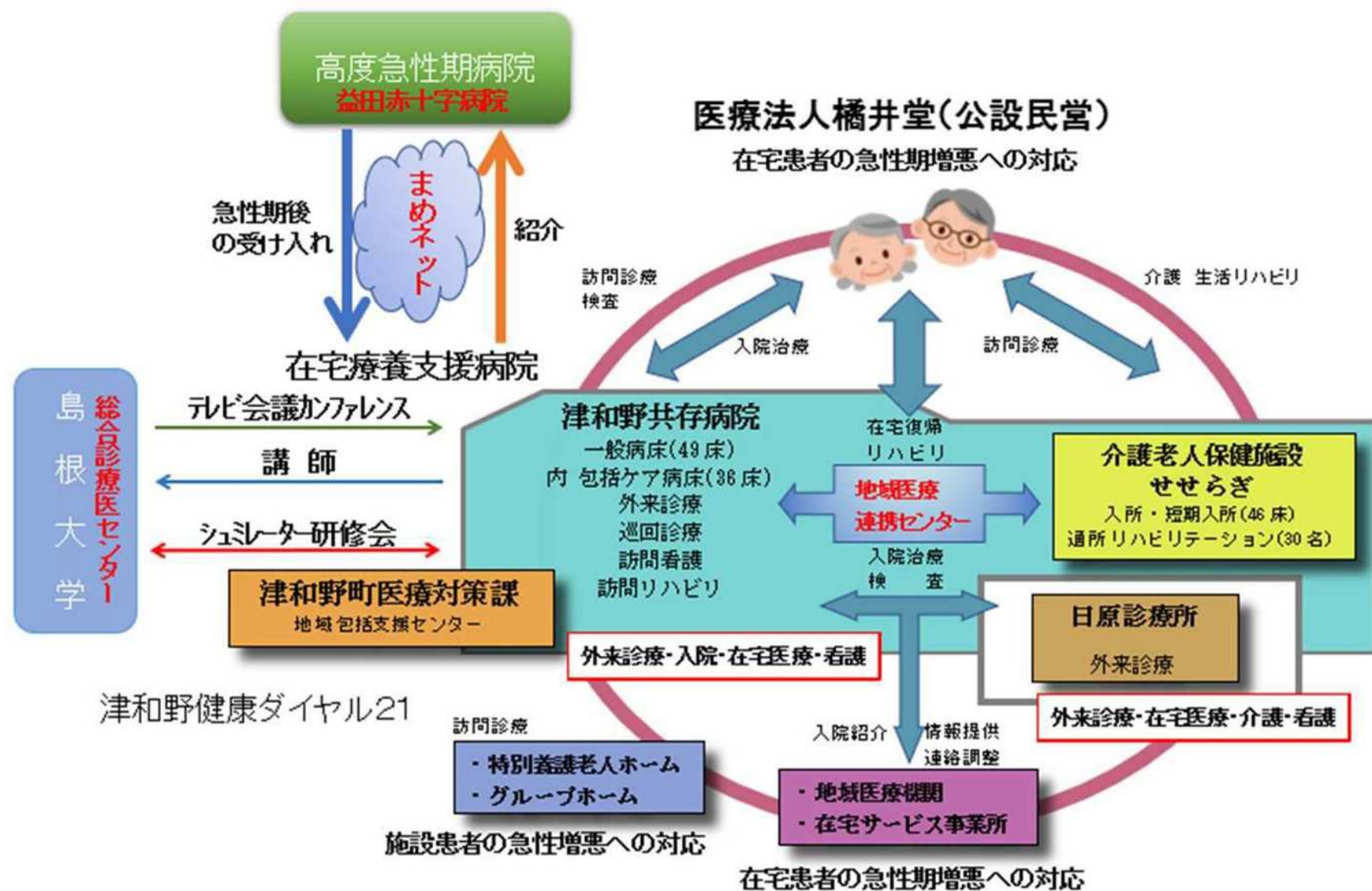


病床数：49床

一般病床：13床

地域包括ケア病床：36床

診療科：内科（総合診療）、
神経内科、
循環器内科、放射線科、
整形外科、小児科、
耳鼻咽喉科、
心療内科、精神科、
リハビリテーション科



津和野共存病院の内科外来の前に
津和野町医療対策課・地域包括支援センターがあります。

医療対策課
地域包括支援センター

内科外来
リハビリテーション科外来



平成30(2018)年 橘井堂存続の危機

平成30(2018)8月・副院長 休職 (～2020.4月)・・・常内科(院長・T医師)

→ 県の代診制度での応援 (1/週)

県内自治体病院から診療応援 (週単位総合医師派遣)

益田赤十字病院から診療応援 (日当直、月単位研修医派遣等)

島根大学医学部から応援 (日当直)

圏域開業医からのスポット応援

医師の縁故による県内外からの個人応援

12月・院長(理事長) 休職 (～2020.4月)・・・常内科(T医師)

平成31(2019)4月・常勤T医師は非常勤へ

平成31/令和元(2019)年 橘井堂再構築 開始

平成31(2019)4月・理事長 交代

県から自治医大卒医師1名

島根大学から内科医師1名

令和元(2019)5月・町と益田赤十字病院による医療機能連携協定

①医療人材の確保

②医療・介護施設の運営・経営支援・協力体制構築

③在宅療養の推進等を実現

町医療・介護統括管理者を益田赤十字病院

木谷光博 院長に委嘱

7月・病院長 交代（理事長・病院長・老健施設長 兼務）

令和 2 (2020) 年 橘井堂再構築 医療体制

令和2 (2020) 4月 ・ 県から自治医大卒医師1名 (引き続き)

県派遣・町奨学金貸与医師1名 (新)

町奨学金貸与医師1名 (新)

5月 ・ 前病院長復帰 32時間/週

副 院 長復帰 32～40時間/週

9月 ・ 診療所G医師退職 → 10月 ・ 前病院長が診療所院長へ

＊診療前に病棟責任者とミニカンファレンスで調整

医師3人がチームとなって診療

毎週月曜夕方に益田赤十字病院長と診療・経営カンファレンス

令和3(2021)年 橘井堂再構築 医療体制

令和3(2021)4月・県から自治医大卒医師1名(交代)

県派遣・町奨学金貸与医師1名産休・育休

→県から応援後期研修医師1名派遣(新)

町奨学金貸与医師1名(引き続き)

*毎夕医局で症例カンファレンス実施

**毎水曜夕方に益田赤十字病院長とカンファレンス

役職者面接、部門別会議

10月・産休・育休医師復帰、応援終了医師を法人採用

法人組織図改定(集中と効率化)

令和4(2022)年 橘井堂 充実・強化

令和4(2022)3月・地域医療拠点病院（へき地医療拠点病院）の認定

4月・県から自治医大卒医師1名（継続→副院長）

県派遣町奨学金貸与医師1名（継続）

県から自治医大卒医師1名（新）

島根大学から地域枠医師1名（新）

*町奨学金貸与医師は島根大学へ、採用した応援終了医師は山口県へ

*毎月曜午後リハビリテーション外来（整形外科）開設

**隔週水曜午前精神科・心療内科開設

6月・超音波診断装置を追加購入

・関節穿刺液のグラム染色を外注から院内検査に

・小児科外来（木）以外の時間帯も内科医師が小児診療

令和5(2023)・令和6(2024)年 橘井堂 充実・強化

-
- 令和5(2023) 4月・県から自治医大卒医師2名(継続)
県派遣町奨学金貸与医師1名(継続)
県から自治医大卒医師1名(新)
- ・MR I 更新
 - ・津和野共存病院の施設改修(防水工事)
- 令和6(2024) 4月・県から自治医大卒医師2名(継続)
益田赤十字病院派遣医師1名(新)
県から自治医大卒医師1名(新)
- ・吉賀町医療法人カタクリ会(理事)
 - ・よしか病院(副院長)へ職員派遣(8月末まで)
 - ・X線TVシステムの更新購入
- 11月・県から医師1名(新)
- ・医療近接型住宅への改修(町医療対策課)

令和6(2024)年度の診療体制

- 外来リハビリテーション科：筋膜リリース・物理療法推進を図る
- 精神科・心療内科：精神疾患の患者も多く、内科疾患があり、患者情報の一元化により得られるメリットは計り知れない
- 産婦人科外来中止・小児科外来1回/週へ集約 総合診療として日々外来で診療
- 木谷光博統括管理監
 - 1回/週 津和野共存病院（木曜午前）・1回/週 日原診療所（月曜午前）
 - ① 1回/週のカンファレンス（毎週水曜）
 - ② 毎週木曜に各部門別会議（目標の進捗状況確認、部門運営支援）
 - ・診療技術部・地域医療連携センター・看介護部・事務部の4部門
 - ③ 運営会議を毎月開催（入院等の収益及び経費状況 病床稼働率）
 - ・経営戦略会議を3ヶ月に1回実施（四半期：4月・7月・10月・1月）

橘井堂再構築 課題の解決(人材不足)

処遇正常化の実施 ⇒ 人材の確保へのワンステップ

令和2(2020)年12月 年末年始手当

令和3(2021)年 1月 扶養手当

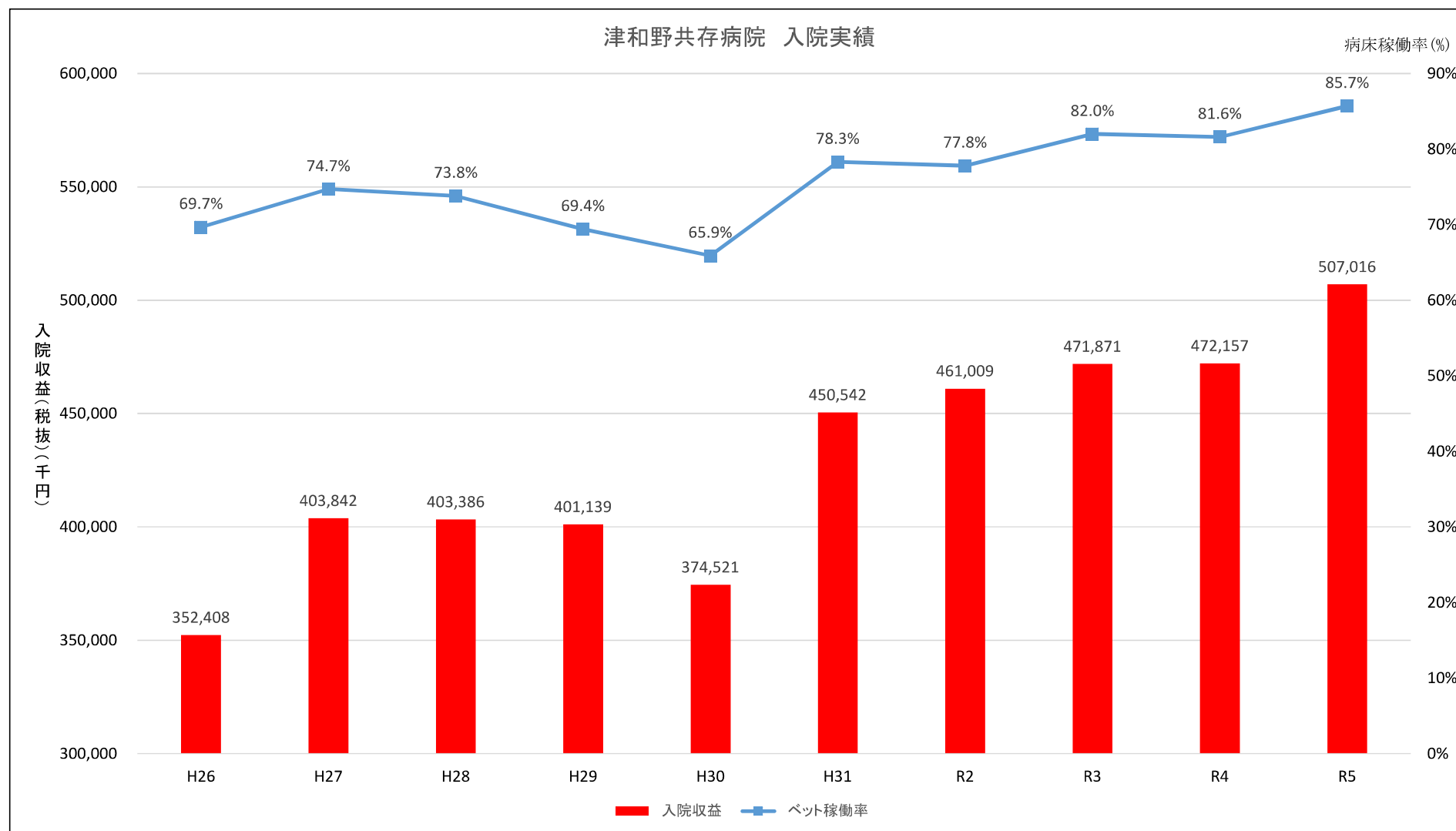
4月 住居手当 * 手当は津和野町にならって改善

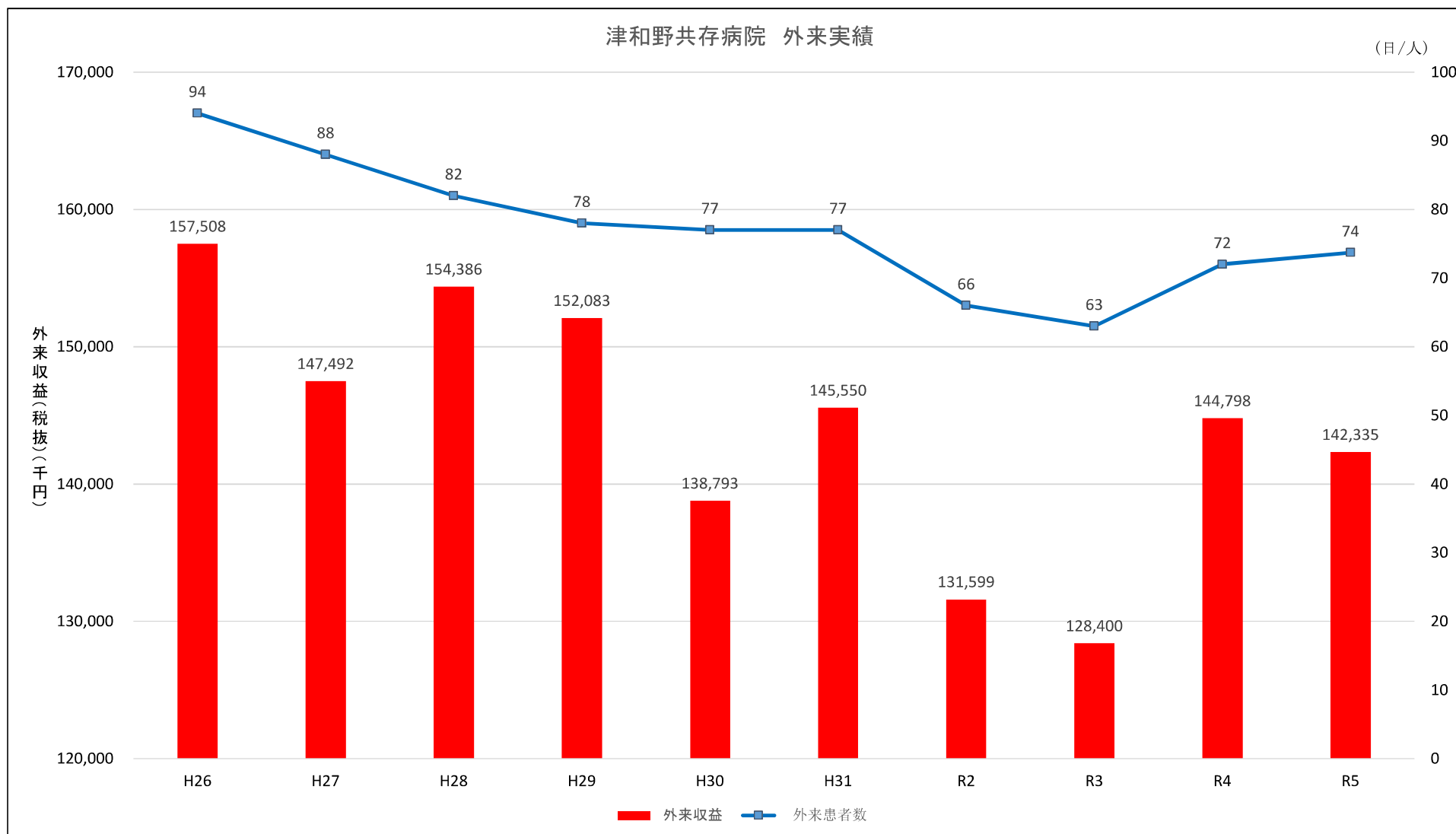
令和4(2022)年 4月

- ①給与体系の見直し .. 益田赤十字病院を参考に
国家公務員の給与表を準用
ベースアップは人事院勧告に準拠
- ②賞与の見直し .. 益田赤十字病院を目指す
- ③退職金制度の拡充 .. 益田赤十字病院を参考

橘井堂 経営状況

- 医療法人「橘井堂」は、津和野町の仕様書に基づいて指定管理者を受託し、津和野共存病院等地域医療基本構想及び経営強化プランに基づき、病院施設を運営できる経営ノウハウを保持し、地域住民に対して良質な医療を永続的に提供するため適切な管理運営を行っています。なお、津和野共存病院等地域医療基本構想及び経営強化プランは島根県医療計画（益田圏域偏）の基準病床数及び島根県医療構想に沿って作成されています。
- 仕様書に基づき施設の管理運営を行っており、診療報酬等全ての収入は、町の収入とし、管理運営に必要な交付金を受け運営しています。また、職員数についても仕様書に示された人員配置数を基本とし、昨今の働き方改革や労働条件の改善に取り組むために必要な職員数を確保するよう雇用に努めています。





忘れてはいけない事！！

- ・津和野共存病院は2019年に**統廃合を検討すべき病院**に指定されたこと

⇒ 他の3病院：松江医療センター、出雲市立総合医療センター
JCHO玉造病院

- ・津和野町が**消滅可能性自治体**に指定されていること

⇒ 他の3自治体 雲南市・奥出雲町・隠岐の島町

＊津和野共存病院は、2019年以前の診療スタイルでは存在できない！

＊若い女性が働ける場所を確保できなければ消滅可能性自治体を脱却できない

→医療・介護の現場は女性が多く働いている職場

※医療介護を中心とした町づくりを・・・若い女性の働ける場を

津和野共存病院の将来進むべき道

- 益田医療圏の中での役割を果たす：地域密着型 総合診療を中心 益田赤十字病院との連携
- 鹿足郡の中での病病連携：よしか病院との地域医療連携推進法人・・・ヒト・モノ・カネの流動性
- 介護施設との連携：津和野・吉賀で広域化
- 地域の安全・安心のために行政との連携
- 地域医療教育・・・若い人を集める

そのため、町と密接なタッグを組み、医療・職場・居住環境を整備し、大学・県・関係医療機関等に更なる協力をお願いして行きたい。

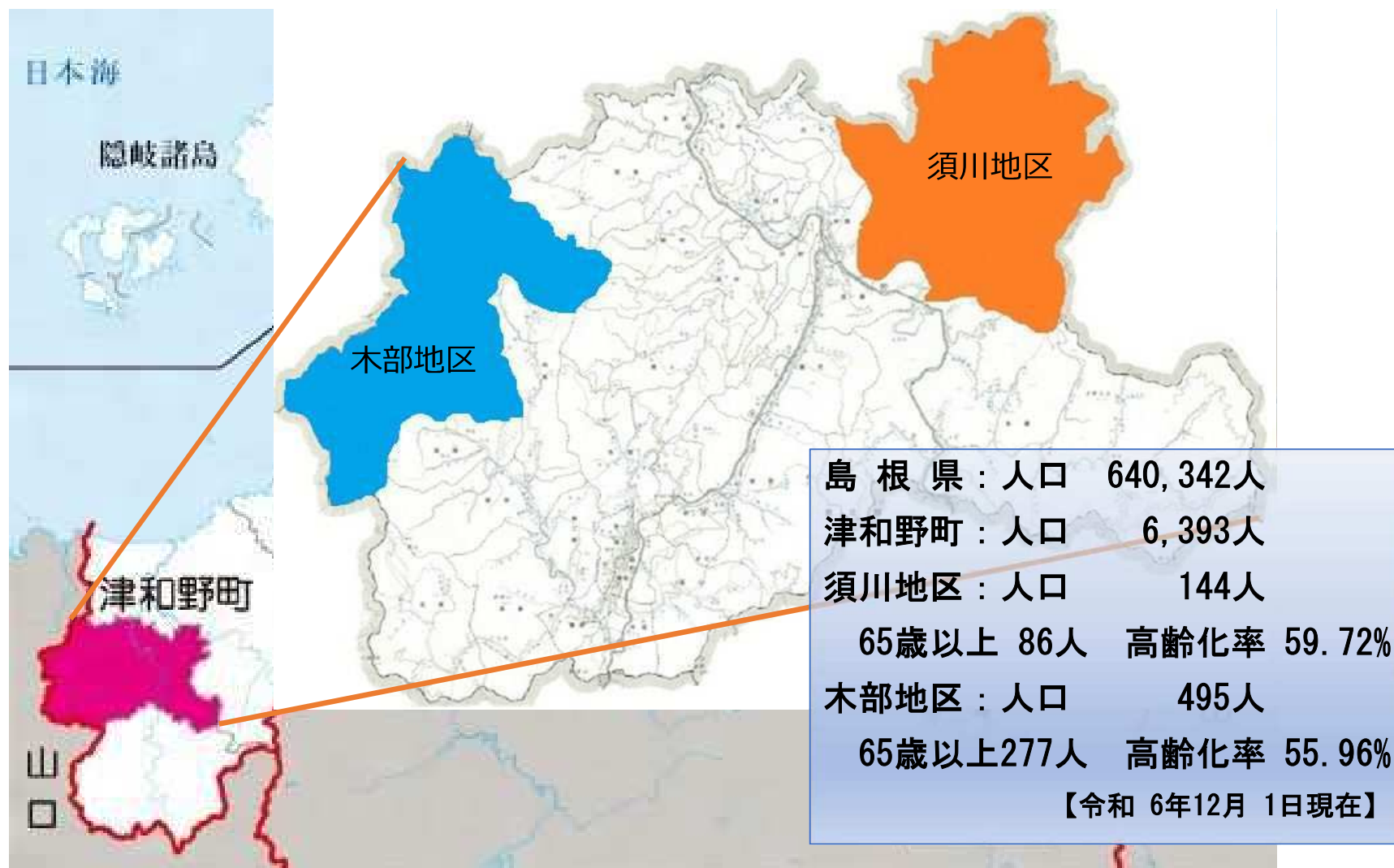
地域拠点病院

◎津和野共存病院の地域医療拠点病院認定

令和3年8月31日付で須川地区、木部地区：無医地区認定

地域医療拠点病院認定について（令和4年3月11日認定）

- ・ 無医地区に対する巡回診療の実施（令和4年7月より開始）
須川・木部地区の患者に各地区の公民館に集まっていた
き、医師・看護師・事務のワンチームが訪問して診療を行う



巡回診療の目的

人口減少集落の公民館を利用して巡回診療を行うことにより 通院困難な地域住民の医療を確保するとともに、公民館が地域づくりの小さな拠点となり 地域の活性、維持、存続に寄与することを目的とした。

巡回診療イメージ図

須川公民館 木部公民館



須川・木部地区の患者



(将来的には車による送迎)



医師・看護師・事務



医療法人 橘井堂

巡回診療（須川地区）



R4. 7. 6 須川公民館

須川地区のみなさま

津和野共存病院
須川巡回診療所

巡回診療 始めます

場 所：須川公民館

診 療 日：令和4年7月6日(水)から 毎月第1、第3水曜日

診療時間：午前9時から12時まで（受付は11時30分に終了します）

薬の処方：発熱や痛みなどですぐに必要な薬はその場でお渡ししますが、定期内服薬は院内処方基本とし、2週間後(又は3週間後)の巡回時に公民館でお渡しします。院外処方でご自身又はご家族がご指定の薬局でお薬を受け取りたい場合はお申し付けください。

お支払い：受診された当日に請求書を発行しますので、2週間後(又は3週間後)の巡回時に公民館にて現金でのお支払いをお願いします。
津和野共存病院・日原診療所でもお支払い可能です。

必要な物：保険証、診察券、お薬手帳など。かかりつけの病院等がある場合は紹介状をお願いします。




お気軽にご利用ください

お問い合わせは 72-0660(津和野共存病院)まで

津和野町・医療法人橘井堂

巡回診療の効果

少子高齢化の中で人口減少集落のへき地医療を維持継続していくためには提供側と受け手側の意思疎通が必要と思われ、巡回診療という形態は解決の一つとなり地域の活性、維持、存続にも寄与することが期待される。

津和野町地域包括ケアシステム



人口減少・高齢化が進む地域では
慢性疾患を持つ高齢者が過ごしやすい
地域包括ケアが求められている

病気の治療だけでなく、
家庭での療養生活を地域で支えていく
地域包括ケアの視点から、
関係者が自分の役割を踏まえ、
他の関係者との連絡・協力・協働が大切

医療近接型住宅の整備

1. 目指すゴール

『この住まいがキッカケに「生涯つわの」が可能となる町になる。』を基本コンセプトとして整備を進める。

- ① 病院と同じような医療・自宅と均しい生活の場
- ② 人や自然とのつながりを構築する交流住宅
- ③ 高齢者の定住課題へのチャレンジ

2. 医療近接型住宅の建設

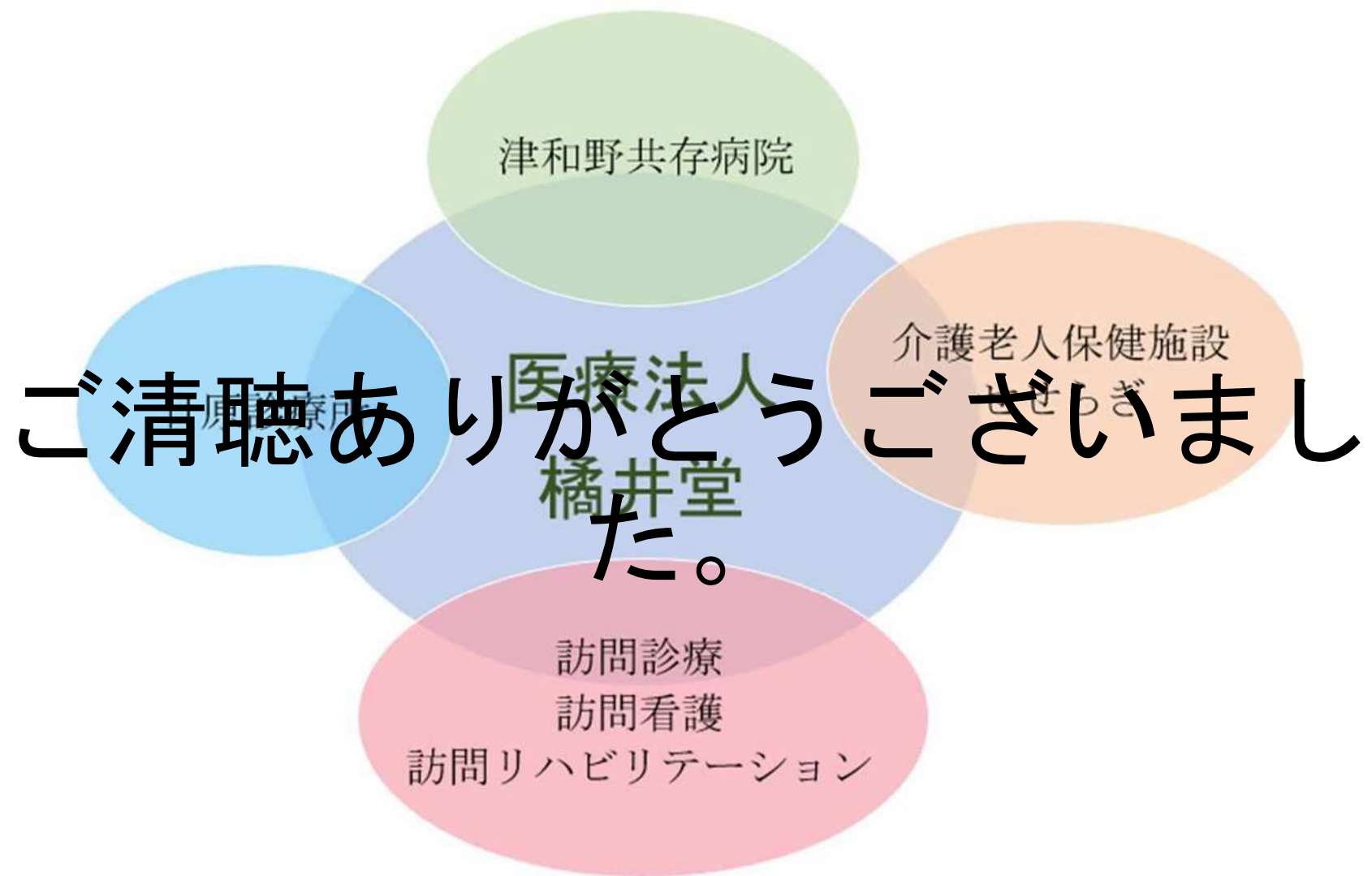
医療従事者住宅（長屋）

1985年建築・木造瓦葺平屋建

2DK (40.02m²) × 4戸

- ⇒ **医療近接型住宅へ転換**
- ⇒ **「在宅への流れ」を作る**





令和6年度 医療連携推進コーディネーター事業取組報告

(令和7年3月13日)

公益社団法人 益田市医師会
医療連携推進コーディネーター

石川 洋紀

病床の機能分化に向けた医療連携コーディネーター事業とは

①事業内容

地域包括ケアシステムの構築に向け、各地域で目指すべき医療提供体制についての検討が進んでいるが、その検討にあたっては地域医療関係者による具体的な議論が不可欠である。

そこで、郡市医師会等に在宅医療の供給についての検討や病院・行政等との各種調整を行う人材（以下「医療連携コーディネーター」という。）を配置し、次の取り組みに従事することにより、地域の病床機能分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保を図る。

（病床の機能分化に向けた医療連携コーディネーター事業実施要綱より抜粋）

②益田市医師会の歩み

平成30年4月～令和4年3月31日

しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）、
病床の機能分化に関する医療連携推進コーディネーター配置事業
に応募

令和4年4月1日～

病床の機能分化に関する医療連携推進コーディネーター配置事業
に統合された新事業に応募

令和6年度事業活動報告

	実施要綱	結 果
検討・企画	(1) 保健所との定期的な意見交換	・毎月定期的に開催
意思決定・評価	(2) 医師との対話を通じた課題把握	・益田市医師会理事会へ4半期毎の事業報告 ・中山間地区の美都地区、匹見地区の将来に向けた医療のあり方について行政、開業医、国保療所長との意見交換会を行った。 ・益田市医師会開業医との在宅医療に関して訪問調査（10医療機関）
報告・評価	(3) 圏域または市町村単位での医療介護連携に向けた会議への参画	・情報交換収集のための会議に参画 ・事業推移報告のための会議に参画

(1) 保健所との定期的な意見交換

・定期開催できた(3月までに10回)

開催日：毎月 第4水曜日 10時～

※幅広い情報交換ができ、会議以外でも相談がしやすい関係づくりができている

※データの提供、展開へのアドバイス等により情報交換や協議ができた。

(2) 医師との対話を通じた課題把握

中山間地区である美都地区、匹見地区の将来に向けた医療のあり方について行政、開業医、国保療所長との意見交換会を行った。

- ・匹見地区では定期訪問（4月、7月、1月）

※匹見道川・澄川国保診療所は、令和6年4月より公益社団法人益田市医師会が指定管理者となる。

【医師の意見】 開業医より2030年に向けて電子カルテを導入することの不安が述べられた。

→島根県・益田市には医療DXのための環境整備をお願いしたい

- ・美都地区では美都診療所管理会を11回開催した。

【医師の意見】 令和7年4月に所長交代があるため、スムーズな新所長への引継ぎ・準備を行う。

電子カルテの導入、高額医療機器の更新等の問題が残っている。

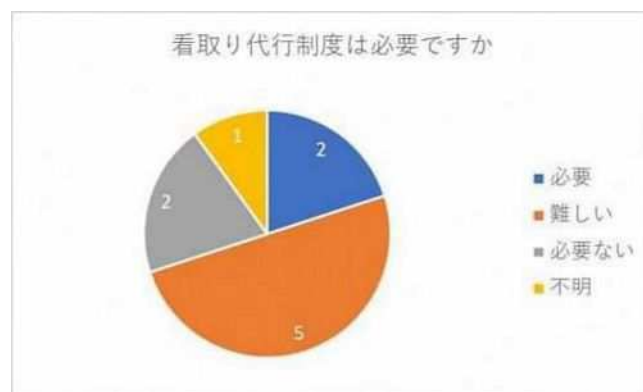
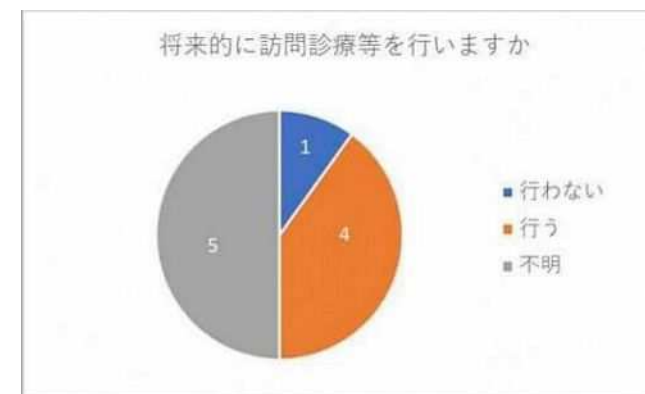
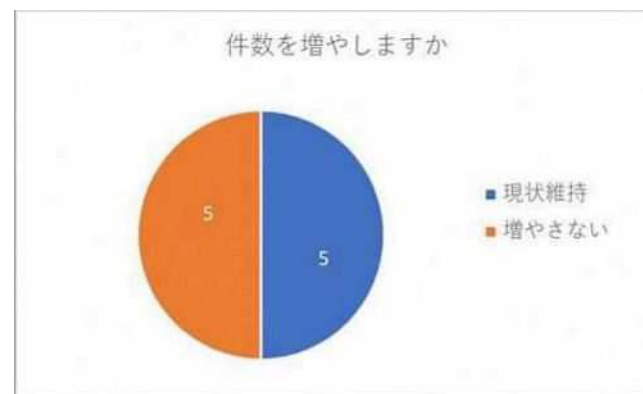
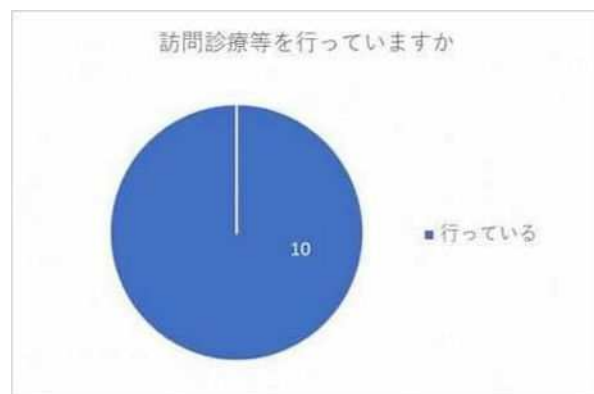
- ・令和6年10月より益田市と次年度よりの契約書更新について協議。

【益田市との協議】 益田市保険課、各地域総務課とで、令和6年度3国保診療所に共通する契約書に更新の協議を開始（特にリスク分担について）

(2) 医師との対話を通じた課題把握

益田市医師会開業医との在宅医療に関して訪問調査（10医療機関）

- 【設問】 ①訪問診療等を行っていますか ④看取り代行制度は必要ですか
②件数を増やしますか ⑤ACPの指導はしていますか
③将来的に訪問診療等を行いますか



【意見】

- ☆訪問診療は患者に頼まれたら行う。
- ☆代行は医師会の親しい先生にお願いする。先輩にはお願いしづらい
- ☆看取代行は施設では無理だろう
- ☆ACPについて、文書では残していないが長い付き合いで患者・家族の意見は聞いている。
- ☆施設の職員から今後の本人・家族の意向は聞いている。

(3) 圏域または市町村単位での医療介護連携に向けた会議への参画

① 情報交換・収集のための会議

- 圏域内医療連携実務者会議の開催（2回開催：5月16日、12月3日）

議事 (1) 近況報告（圏域内完結率など）
(2) 多職種研修会報告と次回研修会について
(3) 詳細版ACP及び地域啓発版ACP（圏域統一様式）「思いをつなげるシート」の作成について

- 訪問看護ステーション協会益田支部会議に参加（2回参加：5月23日、8月29日、12月以降中止）

在宅療養を支える要となる訪問看護ステーションの問題について把握することができた。施設数は増えたがどの施設も人員不足で業務の拡張ができない。

- 益田赤十字病院と医師会病院との地域連携担当者意見交換会に参加（2回参加：10月22日、2月12日）
両病院の問題点や連携方法に対して率直な意見交換ができた。

- 施設内の会議（病床活用カンファレンス、医療介護連携会議、居宅ミーティング）
他施設からの転院、自施設内での状態に沿った転棟等、調整を図るカンファレンスに毎週参加

② 事業推移報告のための会議

- コア会議、在宅医療介護連携推進協議会への参加
ア) ～キ) の事業の益田市との1年間の業務分担が把握できた。

- 益田地域保健医療対策会議・医療介護部会に参加

- 令和6年度市町村等在宅医療・介護連携担当者会議などの行政主催会議に参加

令和6年度事業活動報告

		結 果
取組の柱	(4) 地域医療 介護資源の把握と分析	・多職種連携のための「ちえぶくろ」更新 ホームページに掲載予定（益田市のホームページにリンク） ※前回より、診療所、訪問介護、薬局等の閉院・休止が数か所あり。 ・福祉施設訪問（23施設）訪問調査を実施し医療介護連携上の問題のヒアリングを行った。 ・介護事業所職員の質向上を図るうえで、「出前講座」を継続実施（5回開催） ・居宅介護支援事業所については今年度は訪問していない。
	(5) 医師の在宅医療への取組 促進に向けた環境づくり	・中山間の医療機関の医師との意見交換を実施 ・益田市医師会開業医との在宅医療に関して訪問調査 ・老健と居宅の事例検討会（まるミエール）の開催支援（3回開催）
	(6) 医師と他 職種との連携強化	・医療福祉ネットワークを通じ、多職種で定期的な研修会を支援（2か月ごと） ・多職種研修会の2回開催した。 ・益田圏域訪問看護師フィジカルアセスメント研修会の開催 ・福祉医療ネットワークの開催支援（奇数月第3水曜日）4回開催
	(7) 地域住民 への普及啓発	・「あんきな座談会」の開催 ・住民向けのみんなの保健室への支援（毎月第3木曜日、日曜日）

(4) 地域医療介護資源の把握と分析

多職種連携のための「ちえぶくろ」

令和 7年3月版
益田市在宅医療・介護連携推進協議会

診療所

○：対応可能 △：状況に応じて可能 ×：対応不可 -、空欄：該当なし又は未回答

N O	施設名称	診療科	在宅医療基本情報								備考 (自院で対応可能な医療行為を自由に記載して下さい。)	
	住 所	診療時間 ※平日(月～金)	支援体制				往診・訪問診療可能な項目					
	TEL/FAX		訪問診療	訪問地区	往診	往診地区	24時間対応	24時間電話対応	在宅でのがん治療	在宅でのターミナルケアや看取り		麻薬処方及び管理(内服・貼付薬・注射薬)
1	あすかクリニック	リウマチ科・整形外科 リハビリ科	○	車で10分以内 13:00～15:00	○	車で10分以内 13:00～15:00	△	△		△	－	
	乙吉町口33番地	平日 8:30～12:30 15:00～18:00										
	23-3320 / 23-3824	水・土 8:30～12:30										
2	医療法人 いしみつ耳鼻咽喉科クリニック	耳鼻咽喉科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	高津6丁目23番20号	平日 9:00～12:30 15:00～18:00										
	31-4133 / 31-4134	水・土 9:00～12:30										

[把握項目]

- ・開業医：2か所開設（1か所3月予定）
- ・歯科医院：1か所記載漏れ
- ・調剤薬局：3か所（開設2・休止1）
- ・居宅支援事業所:3か所（開設2・休止1）
- ・訪問介護：1か所開設
- ・訪問リハ：2か所記載漏れ
- ・通所介護：1か所開設
- ・通所リハ：1か所記載漏れ

(4) 地域医療介護資源の把握と分析

福祉施設訪問（23施設）への調査結果

施設看介護対応表														2024 修正	
	施設名	入居基準 ADL	看護師の 勤務状況	食事形態 提供可能	治療食	胃瘻：人数	吸引	バルン留置	インスリン管理	内服管理	コレット器具 着脱介助	入浴	褥瘡処置	看取り	入院した時の待機期間など
あ	グループホーム あじさい	要支援～ 要介護	2日1回 勤務	ミキサー食	カロリー 制限○	×	×	○	×	○	○	一般浴	軽度○	○	期限1か月
	介護付有料老人ホーム あじさい本館	要介護2～ 要介護5	日勤1人 8:00～17:00	ミキサー食	カロリー 制限○	○	×	○	3回打ち可	○	○	一般浴 シャワー浴	軽度○	○	期限1ヶ月以内(それ 以上は退所)
	介護付有料老人ホーム あじさい1号館	要支援～ 要介護5	日勤1人 8:00～17:00	ミキサー食	カロリー 制限○	○	×	○	Ns対応時 間で	○	○	一般浴・特浴 シャワー浴	軽度○	○	ストーマ○ HOTO
	あすかケアホーム	要介護 1～5	日勤1人 8:00～17:00	とろみ刻み ミキサー食	カロリー・塩分 制限○	○	×	要相談	Ns対応時 間で	○	○	座位浴 個浴	軽度○	条件次第	期限3ヶ月(見込みがあ れば○) ストーマ相談 HOTO
	〒高松市 あすかシルバーホーム	概ね自立 要介護2まで	8:00～ 17:00必ず 1名いる	とろみ刻み ミキサー食	カロリー・塩分 制限○	×	×	要相談	自己管理○ 見守り 破棄援助○	○	×	自室に風呂 シャワーあり	○ 訪看対応	×	外部介護サービス利用可 ストーマ○ HOTO自己管理○
	寺部 アゼーリみずすみ	要介護 1～5	日勤のみ	ゼリー食	○	○	現時点では 夜間はしてい ない	○	朝屋○ 夕眠前×	○	○	一般風呂	軽度○	×	一旦退所調整可 ストーマ○ HOTOシートのみ可
	特別養護老人ホーム 阿北苑	要介護 4～5	早出日勤 3人	ゼリー食 刻み食	腎食○ 減塩食○ DM食○	○	夜間×	○	朝屋夕○ 眠前×	○	○	仰臥位浴 座位浴 一般浴	○	○ 医療なければ	期限3ヶ月 ストーマ○ HOT×
	グループホーム あんず [※]	要支援～ 要介護	8:00～ 17:00	とろみ ミキサー食	塩分主食 制限は○	×	×	×	×	○	○	一般風呂 シャワー浴	×	×	期限2か月
	小規模多機能ホーム あんず [※]	要支援2～ 要介護	日中のみ	とろみ ミキサー食	塩分主食 制限は○	×	×	×	×	自己注射○	○	○	一般風呂 シャワー浴	軽度○	×
〒高松市 いわみ	要介護1～5	1人体制 夜間不在	とろみ 刻み食	主食 制限○	○	×	日中のみ	○	×	1回のみ○	○	寝てミスト 個浴	○	○ 点滴も可	期限1ヶ月

福祉施設訪問への設問

- ① 医療機関の状況説明（退院から入所へスムーズな流れをつくるために）
- ② 看取りの実施と医療度の高い利用者の受入れ
- ③ ACPの普及ための協力体制について
- ④ 協力病院との今後の連携体制について

・看取りや医療度の高い利用者の受入れは増えてきている。
但し、職員不足（特に医療人材）により受入れができない施設も
あった。
感染症で入退所に影響がでた施設もあった。
・障がい者施設では、レスパイト入院ができないかとの要望もあった。
・ACPについては、多くの施設で入所時に口頭で説明していた。
同意書等の書面で残してはいなかった。
内容もこれからのどのように生活していくのか（生きていくのか）が中
心で、どのような医療を選択するのかという内容はなかった。
病院で必要な情報との開きを感じた。
・協力医療機関との患者情報連携や感染対策連携については、今すぐ
具体的な行動には移さないとのことであった。

(4) 地域医療介護資源の把握と分析

出前講座

実施件数 : 5件 依頼件数7件

内 容 : 認定看護師、セラピスト、社会福祉士が講師
感染予防・対策、運動機能、口腔機能についてなど

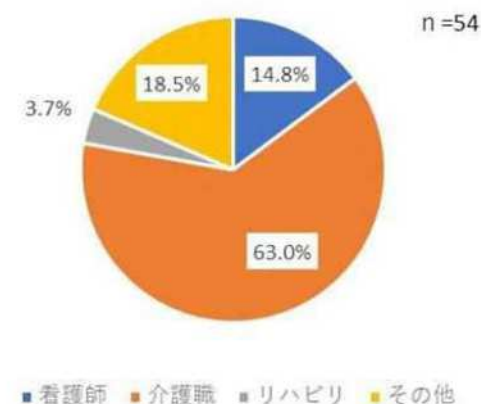
依頼施設 : 特老等4施設 (複数依頼)

参加者 : 54名
看護師 (8名)、介護職 (34名)、リハ職 (2名)、その他 (10名)
※介護職の参加が6割以上を占める

感 想 : 専門職からのわかりやすい講義で理解できたとほとんどが回答

※今年度は依頼件数が減少した。医師会病院が協力医療機関ということもあり
感染に対する依頼が多かった。

出前講座参加数グラフ



(5) 医師の在宅医療への取組促進に向けた環境づくり

まるミエール（老健と居宅との事例検討会）の 開催支援

目的：今年度は各回テーマを決めて、そのテーマについて老健で行われている事例を、市内の居宅支援事業所の介護支援専門員と意見交換し中間施設である老健施設の利用方法を再検討すること。

参加者：医師、看護職、介護職、介護支援専門員、相談員、リハスタッフ、事務職等

日時：第4回 7月24日 ケアマネ 8名 職員 15名
第5回 10月25日 ケアマネ 4名 職員 10名
第6回 3月14日予定

内容：テーマ別発表・グループワーク

第4回 口腔衛生管理

第5回 接遇

第6回 ベトナム実習生の介護現場での関わり



【内容】

- ☆口腔衛生管理の情報はケアマネと共有していきたい。また、デイサービスなどへも情報提供したらどうか意見があった。
- ☆認知症高齢者への介護支援体制を整える必要があるため認知症専門ケア加算の算定を進めていきたいことの報告
- ☆担当利用者の老健での日常生活の報告など

(5.6) 医師と他職種との連携強化

令和6年度

第1回 在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会

「再入院・再発を防ぐために（大腿骨骨折編）
～骨折リエゾンサービス（FLS）チームの活動を通じて～」

目的 医療側（情報の送り手）と介護側（情報の受け手）が骨折予防に向けた取り組み・課題点について共通認識をもつ。

日時 令和6年10月16日（水）19時～20時30分

場所 益田赤十字病院 研修棟講堂

参加者 56名

内容 グループワーク（8グループ）による課題点の抽出

第2回 在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会

「再入院・再発を防ぐために（心不全編）
～ 心不全の疾患理解と管理 ～」

目的 医療側（情報の送り手）と介護側（情報の受け手）が心不全疾患理解と管理について共通認識をもつ。

日時 令和6年2月28日（火）19時30分～20時30分

場所 益田赤十字病院 研修棟講堂

参加者 80名参加

内容 グループワーク（10グループ）による課題点の抽出

【第1回意見・課題】

- ☆多職種連携をするために、共通媒体（お薬手帳）を利用、治療について記載（提案）
- ☆骨粗鬆症手帳の活用
- ☆在宅環境の情報提供、退所カンファレンスの重要性、患者をとりまく各職種・家族の連携、入院中からの家族への関わり
- ☆退院後のサロン参加でポイント加算など（提案）
- ☆認知症・独居高齢者へのアプローチが難しい（課題）

【第2回意見・課題】

- ☆地域共通の手帳・シートの活用
 - ・高齢者が手帳を書くことは難しいのでは（何のためにつけるのか分かっていない）
 - ・若い人たちに早くから意識づけを ⇒ A C P への意識
- ☆支援者側（家族、ケアマネ、介護施設）の心不全への理解、手帳・シートの活用の手助け
- ☆在宅にいる潜在患者への対応
- ☆退院後の患者フォローについて：脳卒中のように県として取り組みができないか

(6) 医師と他職種との連携強化

益田圏域訪問看護師フィジカルアセスメント研修会の開催

目的 今回の研修会は、益田圏域の訪問看護師の単なる技術の向上だけでなく、患者が自宅や施設で療養を行うため、日常的な身体の変化や健康状態の監視などの予防能力や、医療の専門家として微細な異常を早期に発見する観察力の向上を目的とした

日時 1) 呼吸器 令和6年10月19日(土) 10:00~12:00
2) 循環器 令和6年10月26日(土) 10:00~12:00
3) 急変時 令和6年11月 2日(土) 10:00~12:00

場所 在宅医療・介護連携センター(南棟) 3階研修室

参加者 9名(延べ人数)

内容 患者に酷似したシミュレーターモデル人形を用いた研修

- 1) 呼吸のフィジカルアセスメント
最も重要なのは呼吸数、呼吸音聴診の実際、SPO2の理解
- 2) 循環のフィジカルアセスメント
脈診と心電図の関係、心音聴診の実際、心疾患と血圧の関係
- 3) 急変時のフィジカルアセスメント
急変時のABC、気づき、報告

【アンケート結果】

- ☆ 理解できた、まあまあ理解できたが大半であった。
- ☆ 自分から異常な呼吸音をさがしに行くつもりで徴取することが大事であること
- ☆ 心音を右胸上部で聴くこと
- ☆ A D E の使用方法、体験について



(7) 地域住民への普及啓発

あんきな座談会（1月迄）

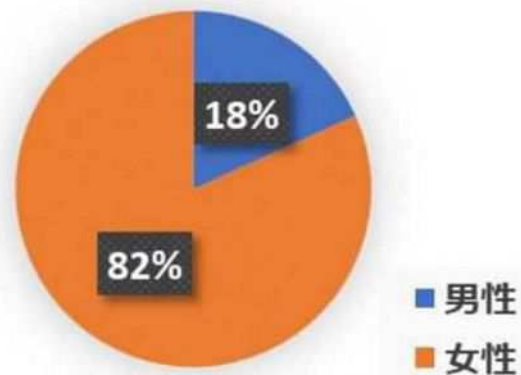
実施件数：10件

内 容：リハビリに関して7件、人生会議1件、薬剤1件、健康に関して1件

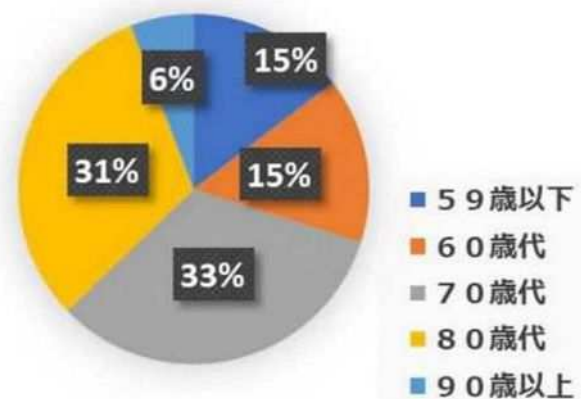
参加者：137名

アンケート結果

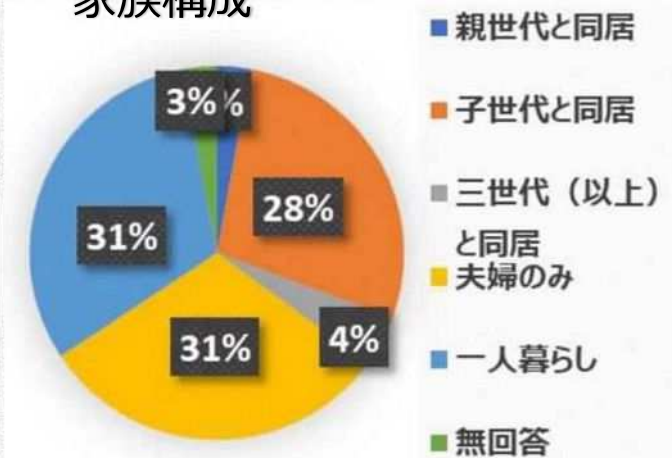
性別



年齢別



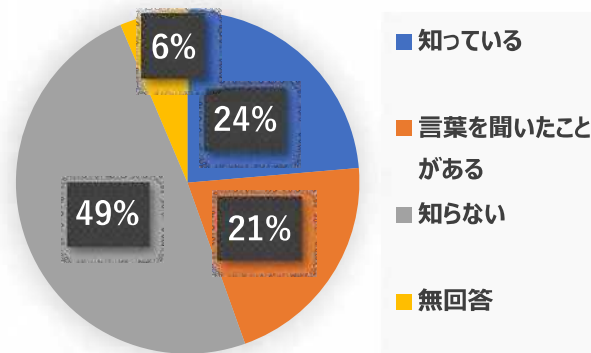
家族構成



(7) 地域住民への普及啓発

R5年度

ACP認知度

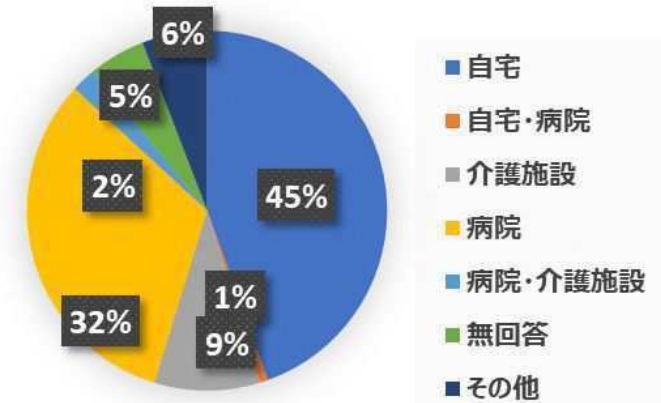


R6年度

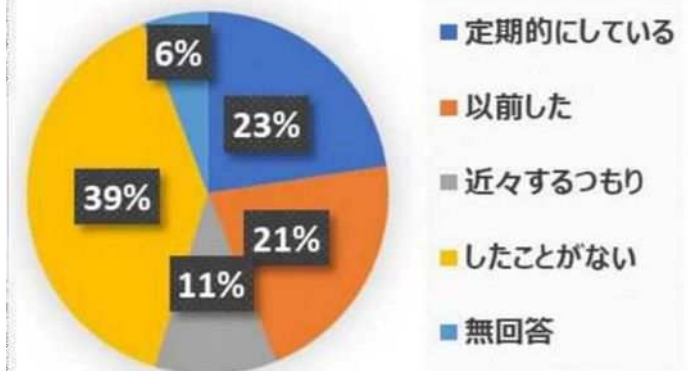
N=137



将来、最後をどこで迎えますか



「もしも」話を身近人としているか



課 題 整 理

実施要項項目	把握項目	次年度の課題
(1) 管轄保健所との定期的な意見交換	・定期的に開催日を決め、市町とのコア会議が合同でできたことはよかった 第4水曜日 10時～ ※課題に対して在宅医療介護連携推進協議会の委員と意見交換ができた。	・定期的な会議の開催の継続 ・継続
(2) 医師との対話を通じた課題把握	・訪問診療等の在宅医療をしてる診療所を訪問（10医療機関） ・中山間地区の診療所訪問（医療機関1施設、国保診療所3施設）	・残りの診療所を訪問し意見を求める。 ・受け皿は設置できたので、引き続き中山間地区の医療提供体制の課題を把握していく。
(3) 圏域または市町村単位での医療介護連携に向けた会議への参画	・施設内での病床活用カンファレンスに参加（急性期～慢性期、在宅まで） ・在宅を担う居宅介護支援事業所のミーティングに参加 ・益田市とのコア会議 ・訪問看護ステーション益田支部会議 ・在宅医療介護連携推進協議会 ・益田圏域内医療連携実務者会議 ・2病院地域連携担当者意見交換会 ・益田地域保健医療対策会議・医療介護部会 ・市町村等在宅医療・介護連携担当者会議 ・地域包括ケアシステム関係機関連絡会議 ・益田圏域在宅医療・介護連携推進担当者連絡会 ・ACPを真剣に考える会	・医療介護連携に関係する会議に参加 ・限りある資源の中、必要なサービスの調整が重要 ・再入院・再発防止のための施策の検討（情報共有など） ・圏域内完結率を妨げる要因抽出し対策を検討 ・ACPの普及・啓発

課 題 整 理

実施要項項目	把握項目	次年度への課題
(4) 地域医療介護資源の把握と分析	・医療や介護の専門職がお互いに円滑な連絡や調整を図り、よりよい支援を行うためにまとめた社会資源リストである『多職種連携のための「ちえぶくろ」』を更新予定。 ・福祉施設訪問を訪問し人員不足によりサービスの向上が難しくなってきたので、医療機関と連携することでお互いに補完する必要がある。 ・出前講座：依頼数の減少。圏域内完結率を高めるためにも、福祉施設職員の質向上を図るために「出前研修」をもっと周知・活用する必要がある。	・多職種連携のための「ちえぶくろ」の修正 ・情報提供体制の検討をしていきたい。 ・在宅療養を支える施設に対して、知識向上の支援を行っていく。
(5) 医師の在宅医療への取組促進に向けた環境づくり	・多職種研修会を年2回開催（骨折、心不全）：疾病別に再入院・再発防止のための問題点や課題を協議した。 ・訪問診療等を実施している医師のための講演会、意見交換会は実施できなかった。 ・急性期から在宅までの利用の流れの中で、各段階の医療機関、介護施設の個々の問題があり、スムーズな流れを阻害している。	・次回は誤嚥性肺炎の研修会を行う。 ・開業医の支援体制を検討したい。 ・各医療機関、介護施設に訪問して、要望等を集約して多職種での会議や研修会で検討していきたい。
(6) 医師と他職種との連携強化	・訪問看護師の研修会を開催（3週連続） ・多職種での研修会の開催について要望があれば支援していく	・介護施設の看護職員のための研修会を検討していきたい。 ・福祉医療ネットワーク等への支援
(7) 地域住民への普及啓発	・「あんきな座談会」でACPの普及を行っている。昨年度よりはACPの認知度があがってる。 ・ACP新しい圏域共通パンフレット「思いをつなげるシート」について医療・介護職員への周知を始めた。 ・住民向けのみんなの保健室は3回開催 7月より中止	・ACP普及への新たな取り組みを検討する（益田市と協働） ・住民への広報活動が不十分で引き続き支援を行う。 ・人員が確保できれば支援していきたい。

意見交換 2040年の益田圏域がこうあってほしいな を一緒に描こう！（パート2）

資料 5

①今年度の医療・介護連携部会で出てきた意見

	現状・課題	方策
急性期医療・救急医療の ひっ迫	・ 冬季、感染症流行時等に救急搬送・救急外来・急性期病床が医療ひっ迫を起こしている。 ・ 退院調整の間がなく、病状説明や今後の予後の説明が不足し、本人・家族が困っている。	・ タイムリーな後方支援の検討（WEB会議開催） ・ 訪問看護、行政担当者等に早期介入を依頼し、退院前に接点を持つ。 ・ 住民に適切な救急車利用・救急外来受診の啓発。
病床機能	・ 慢性期機能が不足し、圏域外流出が続く。 ・ 骨折等で療養が必要だが、入院出来ず自宅にも帰ることが難しい方の緊急受け皿の確保が必要。	・ 施設療養を含めた医療・介護連携の検討。 ・ 緊急受け皿先の確保を検討。
療養先・住まいの確保	・ 軽症だが在宅生活が困難な人の受け皿が必要。 ・ 在宅・施設・病院を行き来しながら療養する人が増加。 ・ 老健で看取りを進めている（くにさき苑）	・ 精神科病院の病床利用（障がい者・認知症等の療養先として活用）。 ・ 在宅・施設・病院関係者の療養の目線合わせが必要。
生活支援 	・ 身寄りのない人、生活破綻者の行政支援が増加。 ・ 地域の見守り、家庭の介護力低下で、在宅生活が困難な高齢者が増加。 ・ 健康で自立した高齢者を増やす疾患管理・介護予防の取組が大切。 ・ 誰もが安心して住み続けられるまちづくり（交通・買物・住まい・くみ取り等、各市町担当課同士の連携）	・ 官民が連携し、セーフティーネットの構築が必要（重層的支援）。 ・ 地域の共助力を応援（地域自主組織、サロン等活動の維持・担い手育成支援）。 ・ 慢性疾患管理の充実（心不全プロジェクト他） ・ 各市町地域包括ケアシステムの構築強化。
人材確保	・ 医師・薬剤師・看護職・介護職の確保	・ 住んで働きたい益田地域に近づく諸方策の継続。
ACP	・ 必要性は分かるが、日々の診療場面では対応しきれない。確認した内容の更新も煩雑になる。 ・ 住民の理解、浸透につなげていない。	・ 郡市医師会、施設嘱託医の意見も聞きながら、取組を深化する。 ・ 圏域全体でACPの取組を継続・発展させる。

②次年度に向けた方策

「益田地域で住み続けたい人を大切にした医療・介護・生活支援の構築」

【入退院連携】

- 冬場、感染症等にかかる救急外来・入院対応の医療ひっ迫をさけるための後方支援・受け皿確保（管内WEB会議・訪問看護等の早期介入）
- 退院調整をタイムリーにすすめる仕組みの検討（ケアマネ・包括・施設職員・訪問看護と早期打ち合わせ＋効率的な連絡調整手段の検討）

【日常の療養支援】

- 独居・老々世帯、身寄りのない人等の生活を支える支援の充実（地域の協力を得ながら多様なサービスを創出）
- 生活支援のさらなる充実（移動・通院・買物・調理・各種手続き・ゴミ出し・汲み取り等）

【共通】

- 急性期治療後、回復状況に併せた療養先の確保に向けた検討
- 介護度・重症度が軽症化した人の支援強化（インフォーマル支援を含め）
- 自分らしく自立した生活を維持できる健康管理・介護予防
- 自分の大切なことを確認し、最期の迎え方を選択できるような意思決定支援（ACP）

【看取り】

- 在宅・病院・施設で連携した看取りの仕組みづくり（医師からの病状・予後の説明を、本人・家族・支援者で共有し、先々の療養先と終末期ケアを一緒に考える）

【急変時の対応】

- 適切な救急車利用・救急外来利用を啓発する
- 体調不安の方に対し、健康ダイヤル等、健康相談できる連絡先を増やす
- 訪問看護・かかりつけ医等の見守り強化



アドバンス・ケア・プランニング

もしものときに備えてあなた自身が希望する医療やケアについて考えてみませんか？あなたの信頼する家族や医療者と一緒に、最期の過ごし方を話し合っていくことをアドバンス・ケア・プランニングと言います。

益田圏域（益田市・津和野町・吉賀町）

『思いをつなげるシート』



記入日： 年 月 日

書き直した日： 年 月 日

Step0.あなたの代わりに意思決定してくれる人を選びましょう。

あなたの代わりに意思決定をしてくれる方は、いますか？

☐ はい ☐ いいえ （どちらか選んで下さい）

本人氏名： _____

代理人氏名： _____

※代理人は複数名記入していただいてもかまいません



かかりつけ医（主治医）氏名： _____

ACP 圏域地域啓発版
作成 島根県益田保健所

Step1. あなたの健康を考えましょう。

1) 今、あなたは病気で治療中ですか？それはどのような病気ですか？

()

2) あなたの病気の治療について医師から説明を受けていますか？

☐ はい ☐ いいえ (どちらか選んで下さい)



3) これからどのような経過をたどるか、もっと詳しい説明を受けたいですか？

☐ はい ☐ いいえ (どちらか選んで下さい)

4) あなたは、将来どのように過ごしたいですか？ (一つ選んで下さい。)

- ☐ なるべく迷惑をかけずに自宅で生活したい
- ☐ 家族やヘルパーなどの手を借りながらも自宅で生活したい
- ☐ 病院や施設でも良いので、食事やトイレなど最低限自分でできる生活が送りたい
- ☐ 病院や施設でも良いので、とにかく長生きしたい
- ☐ その他 ()



Step2. もしもの時に備えて考えましょう。

1) もしも病気になったら、受ける治療に関して希望がありますか？

(いくつ選んでも結構です。)

- ☐ 一日でも長く生きられるような治療を受けたい (延命治療を希望)
- ☐ どんな治療でも、とにかく病気が治ることを目指した治療を受けたい
- ☐ 苦痛を和らげるための十分な処置や治療を受けたい
- ☐ 痛みや苦しみ無く、自分らしさを保つことに焦点を当てた治療を受けたい
- ☐ できるだけ自然な形で最期を迎えられるような必要最低限の治療を受けたい

2) もしも病状が進み、最期の時が近くなったときに過ごしたい場所はどこですか？

(一つ選んで下さい。)

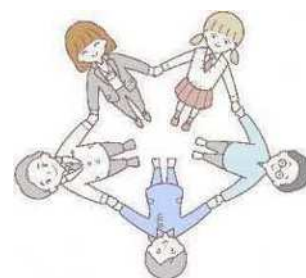
- ☐ 自宅 ☐ 自宅以外（☐ 病院 ☐ 介護施設 ☐ その他（ ） ☐ わからない

自由記載欄（その他、あなたの思いがあればお書き下さい。）

Step 3. 大切にしたいことを考えましょう。

1) あなたが大切にしたいことは何ですか？ (いくつ選んでも結構です)

- ☐ 楽しみや喜びにつながる可能性があること
 - ☐ 家族や友人と十分に時間を過ごせること
 - ☐ 落ち着いた環境で過ごせること
 - ☐ 身の回りのことが自分でできること
 - ☐ 人生をまっとうしたと感ずること
 - ☐ 望んだ場所で過ごせること
 - ☐ 痛みや苦しみが少なくなること
 - ☐ 人の迷惑にならないこと
 - ☐ 納得いくまで十分な治療を受けること
 - ☐ 自然に近い形で過ごすこと
 - ☐ 大切な人に伝えたいことを伝えること
 - ☐ 先々に起こることを詳しく知っておくこと
 - ☐ 信仰に支えられること
 - ☐ その他（ ）



2) これから挑戦したいことや、やってみたい事、やっておきたい事がありますか？

例えば・・・〇〇に旅行へ行きたいなど。自由にお書きください。

〔人生会議 ACP について〕

以下は、入院する患者およびその家族に対する 人生会議（ACP）の説明文です。患者と家族が 人生会議の重要性を理解し、適切な意思決定を行うための参考となります。

患者様およびご家族の皆様へ

入院される際、患者様の治療やケアについての意思決定を支援するために、人生会議（Advance Care Planning: ACP）の実施が重要です。人生会議は、患者様の価値観や希望を尊重し、最適な医療を提供するためのプロセスです。この文書では、人生会議の目的と具体的な手続きについてご説明いたします。

1. 人生会議（ACP）とは？

人生会議は、将来の医療やケアに関する希望を明確にし、医療チームやご家族と共有するプロセスです。これにより、急な病状の変化があった場合でも、患者様の意向に基づいた適切な医療を提供することができます。

2. 人生会議（ACP）の目的およびその重要性

-患者様の意思の尊重し、ご本人がどのような医療を受けたいか、または避けたいかを明確にします。突然の病状変化時に家族が適切な判断を下しやすくなります。家族の負担軽減につながります。結果、医療チームが患者様の希望に沿ったケアを提供することで、医療の質が向上します。

3. 人生会議（ACP）の具体的な手続き

これまでに、人生会議で協議された内容があればご提示下さい。

主治医よりご本人の、現在の病状および、今後の見通しについて説明致します。

患者様の治療やケアに関する希望を確認します。これには、延命治療の希望や具体的な治療方法に関する考え方が含まれます。

患者様の希望を文書に記録します。この文書は医療記録に保管され、必要時に参照されます。

また、関連する医療施設に情報を提供します。

適宜、状況の変化や患者様の意向の変化に応じて、人生会議の内容を見直します。

4. ご家族の役割

患者様の希望を理解し、医療チームと積極的にコミュニケーションを取ります。

患者様の意向に基づいた意思決定をサポートします。

5. お問い合わせ先

人生会議についてご不明な点がございましたら、担当医師または看護師にご相談ください。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

この文書を参考に、患者様およびご家族が 人生会議 についてしっかりと理解し、適切な医療決定を行うための一助となれば幸いです。



命の危険が迫った状態になると、
約70%の方が、
医療やケアなどを自分で決めたり
望みを人に伝えたりすることが、
できなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために
大切にしていることや望んでいること、
どこでどのような医療やケアを望むかを
自分自身で前もって考え、
周囲の信頼する人たちと話し合い、
共有することが重要です。



令和4年 人生会議
厚生労働省



「ACPってなんだろう」
島根県

〔人生会議 ACP について〕

記入日

ID 氏名 様 性別 年齢

病名 問題点： _____

参加者

- 1) 患者背景（要介護度およびこれまでの経過）：
- 2) 入院時の問題点および医学的判断に基づく今後の予想される経過
- 3) 本人の病状の理解および意思：
- 4) ご家族の意向：キーパーソン：
- 5) 状態が悪化した場合の対応について：
 - ア) 疾患や衰弱により食事が摂取できなくなった場合の対応
 - イ) 病気や衰弱により、呼吸や心臓が止まった場合の対応
- 6) その他

もしもの時のために 自分が受けない 歯科医療や口腔ケアは？

病気が進み通院が難しく
なった時や在宅療養を
受けるようになった時
のために、日頃から
かかりつけ歯科医へ
受けない歯科治療や
口腔ケアについて伝えて
おきませんか？



人生会議・・・もしもの時のために、自分が受けない医療やケアについて、前もって考え、
繰り返し家族や周囲の人と話し合い、共有する取組を人生会議と呼びます。

益田鹿足歯科医師会
益田市医師会・鹿足郡医師会・島根県益田保健所
ー「人生会議」の取組をととして歯科口腔保健を推進しますー